

一、十日李景樅本官ヲ來訪シ今日貴官一時歸朝ノコトトナリタルニ付至急話合ヲ遂クヘシトノ朱部長ノ命ニ接シ御伺ヒセル次第ナリト前提シ連絡飛行ノ便法ニ付何等カ試案アリヤト尋ネタルヲ以テ本官ヨリ相互飛行ハ鐵則ナレハ先般ノ朱部長ノ御話ハ問題トナラスト述ヘタル處李ハ貴翰受領以來(往電第七九七號)各方面ニ運動中ナルモ時機未夕熟セス日本側ニテ時機到來迄待タレサルニ於テハ何等力便法ヲ設クルノ外ナカルヘク歐亞ノ新疆省經由飛行ノ實現ハ前記空氣轉換機ヲ早ムルコトト思考スルモ實現時期ニ付見當付カサル次第ナリト述ヘ更ニ本官試案ヲ尋ネタルヲ以テ

三、本官ヨリ例ヘハ歐亞公司ニ倣ヒ日支兩國力均等ニ出資シ

日華公司ヲ設立スルコトモ一案ナルヘク又歐亞公司ニ日本ノ「シェア」ヲ入ルルコトモ一方法ナルヘシト述ヘタル

ルニ李ハ實ハ自分モ右ニ考へ及ヒ部長トモ懇談セルカ實現ノ見込薄キニ付他ノ便法モアラハ貴官御歸朝ノ際關係當局ト御研究アリ度私見ナルカ例ヘハ機械員、連絡員

現ノ見込薄キニ付他ノ便法モアラハ貴官御歸朝ノ際關係當局ト御研究アリ度私見ナルカ例ヘハ機械員、連絡員

(須磨總領事歸朝ノ際持參)
ケル再會見ヲ約シテ引取レリ

轉電先 支

三 華北問題

1 一般問題

189 昭和9年1月7日 在青島坂根(準三)總領事より
廣田外務大臣宛(電報)

青島在留邦人中に山東を第二の満州とすべし
と高唱する者がいるため越軌行動抑止に尽力
の旨報告について

青 島 1月7日後発
本 省 1月7日後着

⁽¹⁾ 第二號(極秘)

滿洲國ノ建設著々其ノ歩ラ進メ殊ニ停戰協定以來北支ニ特別ノ政治的氣運進展ノ情勢アリト見ルヤ山東還附ノ恨覺メス今以テ事每ニ軍政時代ヲ回顧シ内心局面ノ一大轉換ヲ祈リテ已マサル當地多數ノ在留邦人中ニハ輕率ニモ或ハ山東ヲ以テ第一ノ滿洲タラシムヘシト高唱シ或ハ數ヶ月中ニ必ス日本陸軍ノ當地派遣ヲ見ル可シト豫言シ廻リ(昨年中頃

認ム

(「パイロット」ニ非サル)等ヲ日本側ヨリ歐亞公司ニ入ルコトハ支那側ニ於テハ異存ナク(獨逸側トノ交渉ハ貴方ニテ行ハレ度シ)又飛行場ハ福岡及龍華ヲ使用スルコトトセハ兎ニ角連絡ノ目的タケハ達成シ得ル譯ナリト述ヘタルニ付

三、本官ヨリ右ハ全然考慮ノ餘地ナキモ例ヘハ日支連絡ニ限リ日本ノ飛行機ヲ使用スルカ如キ案ハ如何ト尋ネタルニ歐亞使用機ハ「ウンケル」ニ限り居リ他ノ型ノ飛行機ヲ入ルレハ管理ニ困難ナリト述ヘタル上實ハ龍華ハ上海市政府ヨリ六十萬元ノ支出ヲ得テ第一次擴張工事ヲ終レルモ更ニ擴張ノ要アル實情ニテ尙數十萬元ヲ要スル次第ニ付何レ更ニ貴官ト種々打合セヲ遂ケ度シト述ヘ上海ニ於ケル再會見ヲ約シテ引取レリ

當地ノ地價暴騰ヲ見タル一原因ナリト傳ヘラル)然モ其ノ間ニハ軍部ノ意向ヲ受ケ居レリト自ラ言ヒ觸ラス者サヘアリ一般居留民ノ焦燥氣分著シク濃厚トナレルニ加ヘテ近來陸軍駐在武官ノ提唱ニ係ル濟南忠魂碑問題ヲ初メトシ濟南及當地ニ於テ青年訓練所開設問題乃至青年團結成合同問題等所謂非常時意識ニ基ク國民精神作興ノ運動頓ニ盛トナレルカ申迄モナク此ノ種運動ハ本來頗ル喜フヘキ傾向ト認メラル筋合ノモノナルモ裏面ニ於テサヘ事アレカシノ連中ニハ急激ニ拍車ヲ加ヘタル如キ結果トナリ何カノ機會アリ次第逸早ク騒動ノ口火ヲ切り出來得レハ軍隊派遣迄持チ來スヘク待チ構ヘ居ル者ノ數ヲ增加シ來レル矢先昨今福建問題乃至各地ノ反蔣介石氣分ニ對シ軍部ノ積極方針愈確定セリ等ト眞シヤカニ傳唱セラルアリ强硬論者ニ一層氣勢ヲ添ヘタル爲急ニ當地濟南トモ日本脱(ノミニ於テ一段ト形勢ノ險惡化ヲ致セルハ遺憾乍ラ否定シ難キ所ナリト

然ルニ當地方ハ他地方ニ比シ幸ニ近來日支間ニ不愉快ナル事件モ少ク兩國官憲ノ協調的氣分大ナルコト御承知ノ通りナルニ鑑ミ本官トシテハ極力此ノ情勢ヲ利用シ凡ソ理義ノ存スル點ハ充分ニ主張スルモ同時ニ成ルヘク無理ヲ通ス態度ニハ出テサルコトトシ以テ及フ限り諸懸案ノ實際的解決ト在留邦人ノ經濟發展トニ力ヲ致シ居リ從テ居留民ノ指導ニ當リテハ大ニ奮勵努力ノ要ヲ認ムルト共ニ絶エス輕舉妄動ヲ戒メ前記ノ精神作興運動ニ對シテモ越軌ノ行動ニ迄逸脱セシメサル様苦心シ居ル次第ニ將來共中央ニ於テ特ニ國策決定ノ場合ヲ除キ少ク共青島在留邦人自体ノ行動ニ依リ治安ヲ亂スノ結果累ヲ沿線及他地方ニ迄及ホスカ如キ事態ノ發生ハ斷シテ之ヲ防止スルト共ニ濟南方面ノ望マシカラサル風潮ノ當地ニ波及スルコト

(脱?)充分注意シ度キ存念ナルニ付右様御賢察ノ上更ニ心得置クヘキ點アラハ適時御垂示煩ハシ度

尙右目的達成ノ爲當地警備ノ任務ヲ有スル海軍側ノ意向ハ本官ニ於テ相當立入りテ打合ヲ遂ケ之ヲ確カメ得ル立場ニアルモ陸軍ニ對シテハ何分學校ノ配屬將校アルノミナルニ鑑ミ若シ陸軍中央部ヨリ出先陸軍側(濟南ノ駐在武官ノ外

ク終結ヲ告ケ同派ノ地位ハ茲ニ安定ヲ見ルニ至(ルタカ)第二シテ右ハ一面ニ於テ曩ニ黃郛カ日本側ノ了解ヲ求メテ一時促進ヲ見合セ居タル北支ニ於ケル通車、通信、設關、山海關接收等ノ諸懸案交渉再開ノ時期到來セルモノトスヘク關東軍側ニ於テモ交渉再開ノ機會ヲ期待シ居ルモノト察セラルル次第ナル處接收地方ヲ管轄シ居ル當館ノ如キ未タ交渉ニ關シ何等取立テテ意見ヲ徵セラレンコトナキ實狀ナル一方駐屯軍側ニ於テモ本件ニ關スル限り常ニ問合ハスルモ關東軍側ト緊密ナル連繫ヲ保持シ居ルモノト斷シ得サルカ如ク斯テハ諸懸案ノ形式的解決ハ之ヲ期シ得ルトスルモ實蹟ニ於テ衆知ヲ缺ケル嫌アルノミナラス將來之カ運用ノ局ニ當ルヘキ當館其ノ他ノ關係ノ向ニ於テ運用ニ不徹底ヲ免レサル虞ナシトセス殊ニ當館ノ如キ差當リテノ事案トシテ接收地ニ屬スル奥地ノ内鮮人居住、營業問題、山海關ヲ初メトシ北寧沿線ニ於ケル重要都市ノ開放問題、奥地邦人自動車營業問題等ヲ初メトシ前記懸案ニ附隨セシメテ同時ニ解決スルヲ適當ト認メラルモノ多々アリ

右ハ強チ當館ノミノ見解ニアラス他ニモ之ト同様ノ意見ヲ有スル向モ有之ヘシト存セラルニ付本件善後取極ニ於テ

191

昭和9年2月8日

在中国中山公使館一等書記官より
広田外務大臣宛電報

玉田での保安隊と民団の衝突事件に関連して

黃郛と河北省政府との輒轍に關し殷汝耕齋密

二參謀本部ヨリノ旅行者頻繁ニ來往ス)ニ下サルル命令ニシテ本來ノ任務諜報機關又ハ研究員トシテノ分ノ外苟モ兩國國交ノ根本政策ニ關スルモノハ本官トシテ治安ノ維持乃至居留民ノ誘導振等ニ關スルモノアラハ本官ニ於テモ職務上明確ニ承知シ居ル事必要ト存セラルニ付旁々其邊然ルヘク御高配ノ上今後共中央ノ決定等ハ御差支ナキ限り隨時御内示相仰キ度シ將來一層現地ニ於テモ聯絡ヲ計リ前記目的遂行上萬違算ナキヲ期スル考ナルモ最近ノ内情御報告ヲ兼不爲念稟請申進ス

190

昭和9年1月31日

在天津栗原總領事より
広田外務大臣宛(電報)

華北諸懸案解決のため我が方出先關係機関の連絡強化を目的とする代表者會議開催方意見具申

天 津	1月31日前発
本 省	1月31日後着

⁽¹⁾ 第二六號
福建問題、四中全會等豫テ蔣介石及汪精衛延ヒテ黃郛一派ノ勢力消長ニ重大ナル關係アリト認メラレタル諸問題モ漸

北平 2月8日後発

本省 2月8日後着

第五八號

玉田ニ於ケル舊石友三系ノ保安隊ト民團トノ衝突ニ關シ實

狀調査ノ爲客月末出張シ四日歸平セル殷汝耕カ六日極秘ノ

含ニテ原田ニ爲セル内話左ノ通

「客月末玉田ニアル保安隊張福堂部ト同地民團トノ衝突ニ

關シ實地調査セル處ニ依レハ河北省政府カ張部ニ對シ經

費ヲ支給セサリシ爲同部ハ已ム無ク玉田有力者ヨリ一時

借款シ使用シタル處民團ハ之ヲ種ニ故意ニ同部ト衝突ヲ

惹起セルモノニテ自分ハ同地到着後双方ヲ調停シ圓滿解

決ヲ計ラントセル處計ラスモ于學忠ハ自分ノ此措置ニ不

滿ニテ民團ニ味方シ飽迄モ同保安隊ニ罪ヲ着セントシ五

日夕于ハ黃郛ニ對シ如何ニモ黃郛カ日本側ト結ヒ石友三

系ヲ庇ヒ居ルカ如キ字句ヲ並ヘ從來ニ無キ無禮ナル電報

ヲ寄セ來レリ

「元々河北省政府ト黃郛トノ關係カ兔角圓滿ヲ缺キ戰區ノ

問題等力事每ニ掣肘ヲ受クルハ于ノ下ニ學良直系ノ民政

廳長(魏鑑)及財政廳長(魯穆庭)アリテ于ヲ操リ黃郛ノ仕

ヲ寄セ來レリ

(右發表御見合ヲ請フ)

思フニ玉田問題ハ小ナル地方問題ナルモ于學忠民團保安隊

三者夫々ノ立場ヲ固持シ居レルト石友三部隊ハ黃郛トシテ

ハ獨斷ニテ日本側ニ對シ玉田移駐ニ同意ヲ與ヘタル關係上

思切テ于ヲ押ヘテ解決ヲ促ス譯ニモ行カサルラシク結局一

ケ月位現狀ノ儘ニ置キ狀況緩和ノ頃ヲ見計ヒ戰區外ニ移駐

シ他ノ部隊ニ編入セシムル豫定ナルカ如ク之カ爲ニ黃カ北

支ノ地位ヲ拠棄スルトハ考ヘラレス殷汝耕カ右ノ如ク本問

題ヲ重大ニ扱ヘルハ殷カ于ヲ目ノ上ノ瘤トシ我方ノ嫌カル

東北系ノ運動ヲ本問題ニ結付ケ之ニ依リ我方ヲシテ于ヲ率

制セシメントスル魂膽ニアラスヤト疑フ

支、滿、南京、天津、青島、濟南、漢口、廣東、奉天ヘ轉

電シ張家口ヘ暗送セリ

滿ヨリ承德ヘ支ヨリ上海ヘ轉報アリタシ

192 昭和9年3月2日 在青島坂根總領事より
廣田外務大臣宛(電報)

青島神社における我が方の在郷軍人会による満

州国旗掲揚に対し引下ろし方指示について

青 島 3月2日後発

本 省 3月2日後着

第三八號(至急、部外秘)
(^{見当ラズ}往電第三七號別電)

數日前滿洲國皇帝即位式當日ニハ當地在郷軍人會ハ過般

中村駐屯軍司令官ト共ニ來青セル花谷駐在武官ノ指示ニ基

キ青島神社ノ大「ポール」ニ帝國々旗ト併セテ滿洲國旗ヲ

掲揚(滿洲國々旗ヲ下ニ)スヘク計畫中ナリトノ噂耳ニ入り

(^{欄外記入}來レル處)獨立國タル外國ノ國旗ヲツノ旗竿ニ帝國國旗

ノ下ニ併セテ掲揚スルハ敬意表示ノ形式上面白カラス又(

シタル處午後一時過キニ至リ漸ク自發的ニ引下シヲ實行セ

リ

右本官ノ措置ニ對シ當地在郷軍人會ハ極度ニ憤慨シ一方天津駐屯軍及在郷軍人會本部ニ電報スルト共ニ三月三日ニハ總會ヲ開キ之力對策ヲ協議スルコトナレル趣ニテ既ニ高橋中佐ノ名ニ於テ四方ニ檄ヲ飛ハシ居レルカ本官ハ曩ニ御

事ニ邪魔ヲ入レ居ル次第ニ長城線ニ於ケル各種問題ノ

停頓、坂田組營業停止問題、玉田事件等何レモ彼ノ指金

ナラサル無ク殊ニ玉田事件ニハ魏鑑カ自ラ玉田ニ出張シ

保安隊ヲ唆カセル形跡アリ

于學忠ノ黃郛苟メハ學良ノ歸國ニ依リ拍車ヲ加ヘタル傾

向アリ旁黃郛モ消極トナリ今回南下シテ于トノ關係ニ好

轉ノ見込付カサル限り恐ラク再ヒ北上スルコト無カルヘ

キヤニ見ラレ從テ非武裝地區ノ諸問題モ當分此儘停頓状態ヲ繼續スルコト思ハル云々

訓令ノ次第モアリ飽迄地方ノ治安維持ヲ根本方針トシ苟モ不必要ニ之ヲ亂スカ如キ言動ニ出ツルモノアル場合ハ將來

ノコトヲモ考慮シ斷乎タル態度ヲ以テ之ニ臨ミ度キ所存ナ

ルニ付右様御含置仰度シ尙當地在郷軍人會ハ花谷中佐ヲ

「バツク」トシテ動キ居レルハ事實ナルモノノ如シ

支ヨリ上海へ轉報アリ度シ

支、滿、南京、北平、天津、濟南、漢口、廣東へ轉電セリ

(欄外記入) 必要ナル支持ヲ與ヘ可然

193 昭和9年3月9日 在南京須磨總領事より
広田外務大臣宛(電報)

中国財政部訓令の華北沿岸密輸取締法について

南京 3月9日後発
本省 3月10日前着

第一九九號

八日新聞報道ニ依レハ財政部ハ北支沿岸ノ密輸入防止ノ爲
秦皇島、廟島、威海衛、石島ニ稅關分署ヲ設ケ民船ノ取締

(五)朝鮮其他ヨリ石(島)以北ノ沿岸ニ至ルモノハ石島ニ於
ノハ威海衛又ハ石島ニ於テ検査ヲ受ク
(四)大連以東ノ關東州及滿洲沿岸ヨリ龍口、石島間ニ至ルモノハ威海衛石島間ニ至ルモノハ威海衛
(三)大連老鐵山間沿岸ヨリ
(イ)龍口威海衛ニ至ルモノハ廟島

(四)支、北平、天津、青島、芝罘、滿洲轉電セリ
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

194 昭和9年3月29日 在中國中山公使館一等書記官より
広田外務大臣宛(電報)

黃鄂南下に際し同人に華北諸懸案解決への中 國側の迅速対処方を要望について

別電一

三月二十九日發在中国中山公使館一等書記官
より廣田外務大臣宛第一三〇号

柴山公使館付武官補佐官より參謀本部に報告
の「北支那狀勢判斷」

二 三月二十九日發在中国中山公使館一等書記官
より廣田外務大臣宛第一三一號
同右「北支政權改組案」

北平 3月29日後発
本省 3月29日後着

第一二九號

(¹)二十八日黃郛ヲ往訪シ黃カ南下ニ先立チ意見ヲ交換セリ

本官ヨリ當地方ニ於テ日支間問題トナリ居ル通車、通郵ノ問題ノ如キハ日支間ノ大局ヨリ之ヲ觀レハ比較的小問題ニシテ是等カ全部片着キタレハトテ日支ノ關係ハ夫ニテ滿足ナリトハ謂ヒ難ク日支ノ關係ハ經濟上、政治上又ハ軍事上

更ニ提携ニ向ツテ一大長足ヲ進メサルヘカラサルモノト思
考スル處右ニ對スル貴見如何ト尋ネタル處黃ハ支那側トシ
テハ高所ニ至ラン爲ニハ低キ所ニ順次ニ進ミ度ク現在ノ事
態ニ於テ貴見ノ如ク一躍シテ提携ニ進ム事ハ困難ナルヘシ
ト答ヘタリ依テ本官ハ成ル程漸々追フテ提携ニ向フハ理ニ
叶フカ如キモ現在ノ時局ヨリ觀レハ寧口兩國當局ニ於テ提
携ノ範ヲ示シ大衆ヲ誘導スル事時宜ニ適スヘク徒ニ時相ノ
變遷ヲ待ツニ於テハ或ハ其ノ時機ノ到達セサル事ヲ惧ルル
次第ニシテ例ヘハ通車、通郵ノ如キ小問題ニモ或ハ帝政ノ
反響ヲ顧慮シ或ハ福建事件、孫殿英問題等トノ關係ヲ懸念
スルニ於テハ到底解決ノ期ニ達セサルヘク延ヒテハ日本ノ
一般民衆ヲシテ黃郛氏モ亦支那人ナリト嘆セシムル事無キ
ヤヲ惧ルル次第ナリ

(²)過去一年間特ニ昵懇ニ御交際ヲ得タル關係上忌憚無ク言ヘ
ハ本官ノ得タル情報ニ依レハ黃氏北上後既ニ一年ニ達セン
トスルニ拘ラス停戰協定當時口約セラレタルモノノ内實現
セサルモノ尠カラス河北ノ現状ニ對シ日本側ニ於テ不満ヲ
抱クモノ漸々多ク密ニ憂慮シ居レル次第ナリ若シ閣下南下
ノ上北支諸問題ノ解決ニ付確實ナル方針ヲ持歸ラルニア

ヲ爲スコトニ決シ行政院ヲ通シ北支當局ニ取締協力方ヲ訓
令セル趣ナルカ右民船取締辦法要旨左ノ通

(一)關東州滿洲及國外諸地方ヨリ秦皇島、龍口ノ線以内ニ至
ル民船ハ秦皇島又ハ廟島ニ於テ検査ヲ受ク可キモ山東

(二)關東州又ハ滿洲ノ渤海沿岸ヨリ秦皇島龍口線以外ノ山東
角以南ニ至ルモノハ同様廟島ニ於テ検査ヲ受ク可キモ山東

(三)大連老鐵山間沿岸ヨリ

(四)支、北平、天津、青島、芝罘、滿洲轉電セリ
支ヨリ上海へ轉報アリタシ

ラサレハ右空氣ノ改善ハ恐ラク六ヶ敷カルヘシト考フル旨ヲ述ヘタル處黃ハ右諸問題ハ正ニ實現ニ努力シツツアルモノニシテ南下ノ上ハ飽迄其ノ實現ニ奮闘スヘク蔣、汪ノ同意ヲ得タル上ハ直ニ殷同ニ電報シ自分ノ歸平ヲ待タス交渉ヲ開始セシムル考ナリト答ヘタリ

右會談中言及シタル日本側ノ空氣ニ付テハ柴山武官ヨリ詳細參謀本部ニ電報ノコトト思考シ同部ヲ通シテ本省ニ於テ既ニ御承知ノ事トモ存スル處右ニ對スル方策トシテ柴山武官ヨリ別電第一三〇號及第一三一號ノ通り參謀本部ヘ電報シタル筈ニシテ右ニ對シテハ本官ニ於テモ全然同意見ナルニ付テハ爲念電報ス

(別電一)

北平 3月29日後発
本省 3月29日後着

*
第一三〇號
北支那狀勢判斷

第一、判決

一、現北支政權ハ目下相當誠意ヲ以テ日支國交ノ調整ニ努力

シアリ殊ニ關東軍トノ申合事項ニ關シテハ其ノ責任上熱心ニ其ノ遂行ヲ研究中ニシテ之カ爲黃郛ハ近ク蔣、汪兩氏ト會見シ河北政權ノ根本的改組(別電參照)ヲ提案シテ權力ノ増強ト獨立性ノ擴充ヲ要求シ以テ申合事項ノ斷行ハ勿論更ニ進ンテ河北ニ於ケル將來ノ日支關係ヲ一層積極的ニ調整スヘク決意シアルカ如シ

以上ノ狀況ニ鑑ミ帝國ハ此ノ際今暫ク彼等ニ藉スニ時日ヲ以テシ此ノ間直接彼等ヲ指導シ其ノ決意ヲ益々強固ナラシメ之カ實現ヲ促進セシムルト共ニ一面南京政府ヲシテ右提案ヲ容レ彼等ノ抱懷スル積極的政策ヲ斷行セシムル如ク指導スルヲ要ス

二、黃郛ハ今回若シ其ノ意見(少クトモ關東軍トノ申合ノ實行)蔣、汪兩氏ニ容レラレサルニ於テハ再ヒ北上セスト言明シアルヲ以テ此ノ場合ニハ直ニ之ニ代ルヘキ新政權ノ樹立ヲ必要トスル次第ナルカ現在ニ於ケル北支一般ノ状勢ヨリ之ヲ考察スルニ從來吾人力要望セシ親日獨立政權ノ樹立ノ如キハ今日到底之ヲ望ムヘクモアラサルヲ以テ南京政府トハ一脈相通スルモ從來ノ如ク大ナル掣肘ヲ受ケス

而モ關東軍トノ申合事項ヲ斷行スルハ勿論相當程度ノ積極的親日政策ヲ實行シ得ル程度ノモノヲ以テ満足セサル可カラス然ルニ今日北支ニ於テハ之スラ敢行シ得ル人材無ク若シ強ヒテ之ヲ求メントセハ山西ノ閻錫山ニ之ヲ強要スルノ外無カル可シト信ス而シテ此ノ場合ニハ帝國ハ機ヲ失セス之ヲ實現セシメ北支ヲシテ再ヒ混亂狀態ニ陷ラシメサルノ用意ヲ必要トス

第三、理由ノ要旨

一、現河北政權カ今日迄其ノ政策動モスレハ微溫的ニ流レ何等積極的工作ノ見ル可キモノ無カリシハ彼等ノ無力ニシテ且ツ果斷ノ氣力ニ乏シキカ爲ナルコト勿論ナルモ又面ニハ對内問題ノ爲受ケタル南京政府ヨリノ掣肘若ハ東北軍一派ノ妨害ニ起因セルコトノ鮮カラサリシコトモ亦見逃シ得サル事實ナリ從テ今日迄ノ彼等ノ行動ヲ以テニ無誠意ナリト斷定シ一律ニ之ヲ排撃セントスルカ如キハ決シテ當ヲ得タルモノト云フ可カラス然ルニ今ヤ漸ク對内問題モ一段落ヲ告ケ東北軍ノ大部モ亦近ク南方ニ移駐スルコトトナリ茲ニ初メテ内外ノ障礙除去セラレ彼等ノ態度如何ニ依リ其ノ政策ヲ或程度迄左右シ得ルニ至レ

リ從テ今後ニ於ケル彼等ノ行動コソ大ニ注視スルノ必要アル可ク

要⁽³⁾スルニ現下河北政權ニ對スル帝國ノ態度ハ過去ニアラスシテ將來ニ於ケル事績如何ニ依リ決定セラル可キモノト信ス故ニ帝國ハ今暫ク彼等ニ藉スニ時日ヲ以テシ此ノ間直接彼等ヲ指導シ積極的政策ヲ實現セシムルト共ニ南京方面ニモ(脱?)盡シテ彼等ノ政策實行ヲ容易ナラシムル如ク工作シ其ノ結果如何ニ依リ措置スルモ決シテ遲キニアラサル可シ

二、北支ニ於テ現政權ニ代ルニ獨立政權ヲ以テセントスルカ如キハ適當ナル統領無ク而モ從來ヨリノ關係上稍反蔣的空氣濃厚ナリシ東北軍無キ今日帝國カ相當ノ兵力ヲ以テ之ヲ援助セサル限り到底不可能ナリ而シテ今日帝國カ北支ニ兵ヲ用フルカ如キハ極度ニ疲弊セル北支經濟ヲ更ニ深刻ナラシメ漸ク其ノ曙光ヲ見ントシツツアル我經濟發展ヲ根底ヨリ破壞スルモノニシテ帝國ノ北支ニ庶幾スル根本方針ニ副ハサルモノト云ハサル可カラス故ニ吾人ハ已ムヲ得ス其ノ改善策ヲ採用スルノ外無ク然リトセハ次ニ樹立セラル可キ政權亦從來ト大同小異ノモノタルヲ覺

悟セサル可カラス即チ比較的蔣トノ關係疎ニシテ現北支ノ勢力者タル閻ニ之ヲ強要スルノ外無カル可ク而モ閻ニ其ノ野心無キニアラサルカ如シ坊間傳フルカ如キ吳佩孚、張作相、韓復榘等ニ此ノ力無キハ今更茲ニ敍述スル迄モ無シ

(別電二)

北平 3月29日後発
本省 3月29日後着

第一三一號(極祕)
北支政權改組案

(事實上黃郛ノ參謀長タル殷同之ヲ立案シ既ニ黃、何兩氏ノ同意ヲ得テ決定セルモノ)

一、軍事分會ヲ廢止シ軍事處トシ政務委員長ノ隸下ニ入ラシム
(何應欽ハ特使トシテ日本ニ派遣シ日本要人ト聯絡セシム爾後歐米漫遊ノ途ニ就カシム彼亦之ヲ希望シアリ)
二、北支ニ關スル限り外交、交通、產業ノ特權ヲ南京政府ニ承認セシム

三、河北省政府ヲ改造シ爲シ得レハ主席ヲ交代シ黃郛之ヲ兼ヌルカ若ハ商震ヲシテ之ニ當ラシメ已ムヲ得サル(脱?)モ各廳長ハ之ヲ更迭ス
四、河北省政府ヲ保定ニ移シ天津ハ特別市トシ政務委員會ニ直屬セシム
五、戰區ハ河北省ヨリ切離シ政務委員會直轄タラシム
六、政務委員長ノ權力ヲ增强スル爲戰區保安隊(約一萬)、北平市公安隊(約一萬二千)、天津同(約七千)計約三萬ノ公(保)安隊ヲ改造訓練シ之ヲ政務委員長ニ於テ隨時使用シ得ル如クス

195

昭和9年4月7日 在天津栗原總領事より
廣田外務大臣宛(電報)

開灤炭鉱ストライキへの日本軍閥与説に關す

る中國紙報道について

天津 4月7日後発
本省 4月7日後着

第九一號

往電第八八號後段ニ關シ(開灤炭坑罷工事件)

北平 4月12日後発
本省 4月12日後着

第一五四號

滿洲國帝制發布當時ヨリ抬頭シ來レル當方面謠言ハ黃郛離平前後ヨリ愈熾烈ヲ加ヘ例ヘハ

(イ)溥儀皇帝ノ東陵參拜說

(ロ)日本軍ノ察東進出及同飛行機ノ沽源方面偵察
(ハ)黃郛ノ南下ニ際シ家財ヲ全部持去リタルコト
(二)通車、通郵問題ニ付我方力最後通牒ヲ發セリ

等眞偽錯雜ノ結果河北ノ危機ハ到來セリト爲シ公使發閣下宛電報第二四一號ノ如キ我方關係ノ消息ハ過大ニ各地ニ傳ヘラレ一方當地各紙モ之ヲ大袈裟ニ取扱ヒ就中北平晨報ノ如キハ九日社論ヲ以テ「北支安定ノ爲ニハ確乎タル政策ナルヘカラス」ト題シ今回柴山武官ノ山西旅行ニ引懸ケ曰本ノ北支侵略ノ機モ近キニアルヲ以テ戒心ノ要アリト論シ又十日益世報十二日北平新報等(委細郵報)夫々右ト大同小異ノ筆致ヲ以テ河北ノ危機ヲ唱フル一方各機關及新聞記者間ニハ滿洲國間諜カ平津兩地ニ潛入シ河北ト滿洲國トノ併合運動中ニテ北支ハ戰ハスシテ滿洲國ノ領有ニ歸シ溥儀皇

~~~~~

196 昭和9年4月12日 在中國中山大使館參事官より  
広田外務大臣宛(電報)

滿州國帝制實施後に台頭した日本軍華北方面  
侵略説について

帝ハ端午節ニハ北平ニ移駐鎮座シ又黃郛カ再ヒ北上セサルト共ニ何應欽ノ逃亡說並右ニ關シ袁市長、余公安局長ノ右引留說等眞面目ニ喧傳セラレ又諜報ニ依レハ故宮博物院（元宣統帝ノ居ラレシ宮殿）ニ連日多數ノ石油罐ヲ搬入シ居リ右ハ前記謠言ノ結果溥儀皇帝入平ノ際ニハ之ニ放火シ灰燼ニ歸セシメントスル爲ナル趣ニテ當方面人心ハ漸次不安ニ閉サレ來リ要人中ニモ之ニ惑ハサレ夫トナク館員ニ之ヲ質シ館員ヨリ其ノ事ナキヲ打消シ居ル實狀ナリ

右當方面空氣御參考迄電報ス  
支、滿、南京、天津、青島、濟南、漢口、廣東、奉天へ轉電シ張家口へ暗送セリ

197 昭和9年4月17日 在中國有吉公使より  
廣田外務大臣宛（電報）

### 華北諸懸案への中國側具体的の処理策を黃郛披

瀝について

上海 4月17日後發  
本省 4月17日後着

\*  
第二八九號

モ之カ引受者ハ信用有リ勇氣有ルト共ニ日本側ノ了解有ル者タル必要有ル次第ニ尙研究中ナリト答ヘタリ  
二、次ニ黃ハ通郵問題ハ通車ニ比シ稍複雜ナル關係有ル處實ハ本問題ハ表向發表ハ憚ルモ實際上ハ自分ノ裁量ニテ不足郵稅追徵等ノ方法ニ依リ或ル程度迄既ニ實施サレツツアル次第ナルカ正式ノ解決方法ハ五月ニ行ハルル聯盟ニ於ケル滿洲國問題ノ審議ノ結果モ參考ニ資スル必要有ルヘク私見トシテハ歐洲戰爭當時獨逸ノ白耳義占領ノ際和蘭カ白耳義國內ノ國際郵便ヲ取扱ヒタル例ニ倣ヒ滿洲國ト日本トカ特殊ノ協定ヲ結ヒ滿洲國ノ對外郵便ニ對シ日本切手ヲ使用スル等ノ方法モ一案ナルヘシト考ヘ居レリト語レリ  
三、次テ本使ヨリ北平政務整理委員會ノ改組說等（北平發閣下宛電報第一三一號）ニ付質シタルニ黃ハ之ヲ一笑ニ附シ組織變更ヤ權限ノ擴張等計畫シタル事モ無ク（事實黃ハ此ノ種計畫有ルヤ否ヤ知ラサル様見受ケラレタリ）權限問題等ニ付今回何等ノ打合モ爲サシリシ由答ヘタリ  
四、更ニ本使ヨリ新聞等ニ傳ヘラルル黃ノ辭職說ニ付質シタルニ黃ハ此ノ點ハ昨日日本記者團ニ話シタル通り肯定モ

黄十六日來滬セルニ付十七日朝會談セルカ要領左ノ通

一、先ツ黃ヨリ實ハ今回河北問題ニ付南昌ニテ一議論スル覺悟ニテ南下シタル次第ナルカ同地ニテ蔣介石、汪兆銘ト會議ノ結果ハ兩人トモ事態ヲ能ク了解シ居リシ爲別段面倒ナ議論モ無ク相當ノ打合セ出來タリトテ通軍問題ニ言及シ之カ解決促進ニ意見一致シタル旨ヲ述ヘタル上實ハ此ノ問題ハ日支兩國ノ大局ヨリ見レハ極メテ小問題ナルモ外間ニテ餘リニ騷立テタル爲兩國間ノ中心問題ノ如クナリタル結果政府ニテハ之カ實施前各方面ノ反對空氣ニ對應スル爲國內的準備ヲ爲ス必要ニ迫ラレ之カ爲多少ノ日子ヲ要スル見込ナルカ大体ノ豫定ハ自分（黃）ノ南方滬在中ニ政府ニ於テ技術的研究ヲ遂ケ具体案出來タル上蔣、汪等ヨリ中央政治會議ニ提出シ之カ通過ヲ計リ政府ノ訓令トシテ自分ニ於テ之カ實施ヲ爲ス事ニ打合セ出來タリト語リタルカ通車ノ具体的方法如何トノ本使ノ問ニ對シ黃ハ其ノ點ハ今後ノ研究ニ俟ツ次第ナルカ現在ノ旅行案内社（我國際觀光局ノ類）ノ如キモノヲ利用スルモ一案ナル處對內的關係ニテ實現困難ノ事情有リ孰レニスル

セス又否定モセサル程度ノモノナルカ自分トシテハ將來歩ム可キ餘地アル限り飽迄前進ス可ク大約一ヶ月後ニハ歸任スル積リナリトテ（北平發本使宛電報第一三一號）ノ如ク黃ハ對內的立場上態ト此ノ如キ言廻ヲ爲スモノト察セラル）結局消極說ヲ否認セリ  
五、共匪討伐ニ關シ黃ハ多クヲ語ラサリシカ江西方面ハ目下順調ニ進捗シツツアリ共匪區域ハ既ニ七縣ノミトナリタレハ今年（脫）月頃迄ニハ凡ソ一掃除済ム見込ナル由語リ  
六、尙日支間ノ一般的國交促進方等ノ點ニ關シテモ適宜意見ノ交換ヲ爲シタルカ其ノ際黃ハ支那ハ米國モ歐洲諸國モ餘リニ遠クシテ提携ニハ緣遠ク其ノ行ク可キ路ハ右ニ日本ト握手スルカ左ニ露國ト握手スルカ其ノ一ヲ選フノ外無キ處國際的現情及東洋ノ和平保持ノ爲メノ外支那ハ目下共匪ノ慘害ヲ蒙リ居ル點（ヨリ）云フモ日本ト提携スルヨリ外無キ次第ニテ此ノ點ハ蔣汪兩人トモ全ク同一意見ナル旨語（リ）尙蔣介石ハ前顯共匪討伐カ一段落就キタル上一應南京ニ歸リ政府ノ組織等整理ヲ實行シ從來ノ如キ各方面ヨリノ反對ニ依リ政策ノ實施出來サルカ如キ弊害

ヲ除去スル考ナルニ付一面日本側ノ支那ニ對スル眞意等漸次判明スルト相待テ兩國ノ關係モ一段好轉スルモノト

期待シ居ル趣附言セリ

<sup>(4)</sup>終<sup>(七)</sup>ニ本使ヨリ近ク歸朝ノ旨ヲ告ケ黃ノ我方ニ對スル希望等ニ付尋ネタルニ黃ハ

(一)概シテ日本ノ要求ハ何レ迄カ限度ナルカ分ラス殊ニ出先ノ機關ニテ種々策動等爲ス爲當或<sup>(惑)</sup>スル事鮮カラス自分等了解アル者ハ兎モ角支那側一般ニ不安ヲ感セシメツツアリ福建事變ノ際ニ於ケル日本ノ態度ハ支那側ニ於テ大ニ感謝シ居レルカ日本トシテハ少クトモ同情的態度ニテ支那人ノ前記ノ如キ不安ヲ除キ安心サセル方法ヲ講セラレン事希望ニ堪ヘス

(二)元來日本人ハ性急、支那人ハ緩慢ナル性格ナレハ餘りニ事ヲ急カス寧口英國流ニ徐々ニ進ム方可ナルヤノ感アリ

(三)又北支方面ニ付言ヘハ多數ノ日本人力各方面ノ意嚮ナリトテ多種多様ノ註文ヲ自々ニ持込ミ來リ支那側トシテハ取捨ニ迷ヒ居ル有様ナレハ日本側ニ於テ將來是等ノ希望提出ヲ統制シ自分等ニ於テ必要緊急ヲ要スルモノ

尙黃ハ三、四日滯在ノ上郷里(嘉興)ニ歸省シ亡父ノ五十年祭及家事ノ整理ヲ爲シ更ニ赴寧打合ノ上約一ヶ月位ニテ歸任スヘシトノ事ナリ

(黃ヨリ新聞記者ニ對シテハ本日ノ會談ハ日支間ノ大局問題ニ關シ意見ノ交換ヲ爲シ同時ニ通車問題等ノ話モ出テ支那側ニテ之力解決方研究中ナリトノ話アリタルカ黃ノ進退問題ニ付テハ黃ハ否定モセス肯定モセサリシ位ノ程度ニテ發表アリ度旨特ニ申出アリタルニ付右ノ御含ニテ御取扱アリ度シ)

198 昭和9年4月19日 在青島坂根總領事より

廣田外務大臣宛(電報)

### 大東公司の青島事務所開設に当たり種々問題

#### 点上申について

付記 三月三十一日発在滿州国菱刈大使より廣田外務大臣宛電報第四七八号

満州国行き労働者の制限を目的として天津、

青島および芝罘に大東公司事務所開設について

青 島 4月19日後発  
本 省 4月19日後着

第七七號  
重光次官へ左ノ通  
本官發滿宛電報

第三號

谷參事官へ左ノ通

一、入滿苦力制限ノ爲滿洲國及關東軍ニ於テハ大東公司ヲ設

ケ入滿苦力ノ查證制度ヲ實行セシムル趣ハ在滿大使發合

第一七九號ニ依リ大體承知セル處當地ニモ大東ノ事務所設置セラレ在天津滿洲國特務機關ノ指揮下ニ業務ヲ行フ

コトトナリタル模様ナルカ此ノ種支那側官憲ノ認メタル

非公式機關カ公然查證ヲ與フルコトニ依リ苦力ノ入滿ヲ

取締ラントスルコトノ根本ニ於テ實行上無理ナル點アル

ハ暫ク置クトスルモ當地差向ノ問題トシテ關東廳ニ於テ

大東公司ノ查證無キ苦力ノ上陸ヲ絕對ニ認メサルニ非サ

ル以上假令當地ニ於テ邦人間ニ聯絡ヲ取り精々取締ニ當

ノヨリ順次片附ケ得ル様セラルル事肝要ナル可シト述  
ヘタリ

ルトスルモ支那船ニ依ル入滿苦力ノ制限ハ事實不可能ナルノミナラス僅カナル查證料(一人ニ付二十仙<sup>(錢)</sup>宛徵收セントシ居レルハ苦力トシテ少額ニ非ス)ニテモ之ヲ徵收スルニ於テハ苦力ハ日本船ヲ避ケ支那船ヲ選フニ至ル可ク到底所期ノ效果ヲ得難キハ勿論苦力輸送ヲ當込ム日本船ハ之ニ依リ意外ノ不利ノ結果トモナル可キヲ以テ關東廳ノ意嚮ヲ問合セタル處關東廳ハ關東廳發青島宛電報第一號ノ通要スルニ好意的ニ滿洲國ヲ援助スルノミトノコトニシテ果シテ上陸ヲ禁止セラルヤ否ヤ明確ナル回答ヲ得ス是テハ當領事館トシテハ大東ニ對シ指導取締ノ方針モ避ケ難キ次第ナリ

二、當地ニ於ケル支那側官憲ハ苦力ノ滿洲行ヲ好マス日本側ノ募集ニ對シ陰ニ陽ニ妨碍ヲ試ミ居ルコト御承知ノ通ニシテ現在ハ表向ノ募集ハ相當困難トナリ居リ内密ニ募集スルノ外無ク其ノ結果トシテ大臣宛往電第五四四號ノ如キ「デマ」ヲモ生スル次第二シテ入滿苦力ハ既ニ相當「デリケート」ノ問題トナリ居レリ

三、大東公司カ滿洲國特務機關ヲ兼ネ苦力查證ノ爲當地ニ事務所ヲ開設セリトノ噂傳ハルヤ日支人間ニ相當大ナル

「センセイション」ヲ起シタルモノノ如ク殊ニ事務所開設ノ爲來青セル大東公司交渉員三野某ナル者ハ元天津軍付軍人時代香ハシカラサル風評モ無キニ非サリシ人物ノ由ニテ三野ノ天津時代ヲ知レル當地在留邦人中ニハ大東

公司ヲ「インチキ」視スル者スラ有リ之ニ關聯シ種々ナ

ル臆測モ行ハレ居ルモノノ如シ(當地常駐員吉田某ヲ招致シ館員ヲシテ種々尋ネシメタルモ唯漠然ト苦力查證ヲ

爲シ將來ハ情報鬼集ヲ爲ス可シト云フノミニテ充分ナル

「プログラム」ヲ有セサルモノノ如ク既ニ漫然

業務ヲ開始スルニ於テハ直ニ各方面ニ支障ヲ與フルモノ

(ト觀測セラル)

四、尙大東公司ハ苦力查證旁滿洲國特務機關トシテモ活動スルカ如クニ承知シ居ル處右ハ天津ノ滿洲特務機關ヨリノ申出ニ止マリ滿洲國中央ヨリ何等ノ申出ニモ接シ居ラス當方取扱上ノ心得トシテハ誠ニ心許無ク感セサルヲ得サル次第ナリ

以上ノ諸點ニ關シ小官心得迄ニ内情折返シ御回示ヲ煩度シ尙當地ト滿洲國トノ關係ハ今後益複雜スルニ至ル可ク漸次實際的解決ヲ要スル問題續出ス可キヤニ認メラル處一般

#### (付記)

新 京 3月31日後發  
本 省 3月31日後着

第四七八號

本官發天津青島芝罘宛電報

合第一七九號

山東及北支方面ヨリ大連、營口、山海關、古北口等ヲ經テ入滿セントスル支那苦力日々増加シ大連ノミニテ目下一日一萬人ニ及フ狀況ナル處關東軍及滿洲國ニ於テハ之カ取締ノ爲今般大東ノ名稱ノ下ニ統制機關ヲ設ケ右機關ノ查證ヲ有スル者ノミニ對シ入國ヲ許可スル事トシ其事務所ヲ天津二於テハ青木公館(大迫中佐關係)ニ青島ニ於テハ長山路五十一號大倉洋行内又芝罘ニ於テハ旅館菊水内ニ設置スル事ニ手配濟ナル趣ニ付テハ右公私代表者ト聯絡ノ上出來得ル限り滿洲國側ノ支那苦力入國制限ニ援助方御盡力煩度シ

本電宛先天津、青島、芝罘  
大臣、北平、支へ轉電セリ

199 昭和9年5月7日

在天津栗原總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

停戰協定区域内での排日風潮説は日本側と関係ある中国人の行動に起因するとの見解上申について

天 津 5月7日後発  
本 省 5月7日後着

第一三一號

豫テヨリ接收地域内ニ於ケル日支關係ニ關シ兔角ノ風説乃至誤傳アリ現ニ開灤炭坑ノ勞動爭議ニ日本軍側カ干與シ居ルトカ又ハ接收地域内ニ抗日運動勃興セリ等ノ風説サヘ傳ヘラレタル處右ニ關シテハ當館ニ於テモ特ニ注意ヲ拂ヒ努メテ各方面ノ情報ヲ集メ居タルカ其ノ主ナル原因トシテ同地域ニハ熱河攻略當時ヨリ日本軍等ニ通譯又ハ密偵等トシテ使用セシコトアル支那人ニシテ今日浮浪シ居る者及同地城ニ於テ何等カ仕事ヲ漁ラントシテ滿洲方面等ヨリ入込ミ來レル支那人相當多く彼等ハ兎角舊縁ニ自負シ日本側ヲ背

事務聯絡ヲ兼ね場合ニ依リテハ桑原ヲ貴地ニ迄出張セシメ度シトモ考へ居レリ御考慮置ヲ請フ  
外務次官ニ轉電セリ

支ヨリ上海へ轉報アリ度シ

中国人労働者の満州国行き制限に関する大東

公司の活動振りについて

芝罘 5月14日後発  
本省 5月15日前着

<sup>(1)</sup> 第二〇號  
本官發濟南宛電報

第六號

大東公司ニ關シ十二日支那船内ニテ查證發行ニ關シ當地航政局辨事處ヨリ抗議アリタル趣ニテ公安局ヨリ非公式ニ本官ニ對シ查證料減免及名目變更方何トカ取計アリタキ旨懇談申出アリタルニ付公司側ト商議スヘキ旨同時ニ當地ニテ然ルヘク查證スルヲ以テ默認アリタシト回答シ置ケリ他面公司側ヨリ當地ノ支那汽船會社ニ對シ入國許可證ノ名目不穩當ナラハ變更スヘク又料金八十錢ニ半減スヘシ其ノ代リ當地共同切符賣捌所ニテ先ツ公司出張員ヨリ查證ヲ經タルモノニ對シテハ出航前船上ニテ查證スルコト右ニ應セサル場合ハ大連ニテ斷然有效ナル措置ヲ執ルコトヲ嚴重ニ通告

シ公安局トモ相談ノ上本十四日中ニ何等ノ回答スヘキコト右回答無キ場合今後如何ナル相談ニモ絕對ニ應セス公司力適當ト認ムル手段ヲ執ルヘキコトヲ附言セル趣ナリ右ハ支那會社側ヨリ公安局ニ轉報シタルモノト思料ス  
<sup>(2)</sup> 公司ニテハ夕方迄右回答ナキ爲本官ニ其ノ趣ヲ報告セルニ付公安局長ト商議スヘク訪問セル處局長ハ本件力到底局長限りノ裁量ニテ取計出來サル趣ニテ本十四日朝韓主席ト相談スヘク濟南ニ出頭セル旨内話セルニ付面會ノ總務科長ニ對シ此ノ(脫)公司ノ查證名目變更料金等ニテ局長ト商議スヘク來リタルカ科長ニテ之ニ應スヘキヤ否ヤラ確カメタルモ局長ノ裁量困難ナル問題ハ自分ニテハ到底取計ハレサル趣ナレハ詳細談合スルノ餘地ナキヲ以テ其ノ儘引キ取りリタリ右ノ如ク局長不在ノ爲支那會社ハ大ニ狼狽シタルモ決定スル處ナク支那汽船會社ハ公司ニ確タル回答出來ス差シ詰メノ辨法トシテ支那汽船ハ自發的ニ苦力ヲ輸送セス一時見合セノ措置ヲ取り其ノ結果トシテ差シ詰メ日本汽船ノミ苦力ヲ輸送スルコトナレリ右御含ノ上韓主席ノ意思御確メアリタシ

天津ヨリ右大迫中佐ヘ傳ヘラレタシ

大臣、支、天津、青島、滿ヘ轉電セリ  
滿ヨリ關東長官へ轉報アリタシ

201 昭和9年5月15日 在芝罘山崎領事より  
広田外務大臣宛電報

大東公司の活動是正方意見具申

芝罘 5月15日前発  
本省 5月15日前着

第二一號

本官發濟南宛電報

第七號

往電第六號ニ關シ

大東公司ノ支那汽船側ニ言告セシ態度ノ頗ル强硬ナルニ鑑

ミ彼等モ狼狽シ延ヒテ公安局長モ恐慌シタルモノノ如ク公

安局側ノ内話ニ依レハ韓カ默認ノ意見無キ限り辭職スルニ

至ルヘク又本件ハ韓ト雖河北ノ于學忠及青島ノ振合ヲ見テ

決定スル様子ナリ他面支那汽船側ハ日本政府ノ意嚮ナレハ

領事ヲ通スヘキモ左ニアラス一會社トシテ斯ル行動ヲ取り

タルニ不審シ居ル様子ナルモ大体成行ニ依リ軍部ノ策動ナ

大臣、支、天津、青島ヘ轉電セリ

202 昭和9年5月19日 在満州国菱刈大使より  
広田外務大臣宛(電報)

大東公司を名目上日本国籍会社とし領事の指導  
下に置くべき旨関東軍などと協議決定について

新 京 5月19日後発  
本 省 5月19日後着

貴電第五四二號ニ關シ  
第六九六號

桑島亞細亞局長へ谷ヨリ

一、十四日係官ニ於テ關東軍、關東廳、滿洲國側ト協議シタル處貴電二(イ)ニ關シテハ大東公司カ關東軍並ニ關東州ニ本據ヲ有スル滿洲土木建築協會ト密接ナル關係有ルニモ鑑ミ支那側トノ關係ニ於テ必要ナルニ於テハ同公司ハ日本國籍ナリト説明スルモ差支無キモ(芝罘發濟南宛第五號中段御參照)實際上ノ責任者ハ中央ニ於テハ滿洲國民政部支那方面ニ於テハ在天津大迫中佐トシ青島芝罘威海衛劉公島ニ於ケル責任者ニ付テハ大迫中佐ノ意見ニ依り決定スル事トシ滿洲國側ニ於テ同中佐ニ電報シ目下回答ヲ待チ居ル次第ナリ(大迫中佐ヨリノ回電接到次第追電

ス)(2)ニ關シテハ關東廳ニ於テモ最近水上署ニ於テ取締ヲ嚴重ニシ又四等船客名簿ノ提出ヲ勵行セシメ居リ更ニ七月一日ヨリ船會社ニ對シ出來得ル限り定員ノ制限ヲナサシムル様手配セル趣ナリハニ關シテハ滿洲國側及關東軍側ニ於テモ全ク貴見ニ同意ヲ表シ居レル處其ノ後ノ芝罘來電ニ徵スルモ出先公司員ニ於テ行過キタル行動アル様ニモ察セラルニ付今後ハ公司員ノ各般ノ處置ニ付テハ充分領事ノ指導ニ從ハシムル様滿洲國側ヨリ大迫中佐ニ訓令スル事トセリ

二(2)滿洲國側ニ於テハ本年ハ豫算無キ爲查證手數料ヲ徵收シ居ル次第ナルモ明年ヨリハ無料ニテ支那側ノ感情ヲ刺戟セサル何等カノ方法ニ依リ入満苦力ノ制限ヲ期シ度キ意嚮ヲ有シ居ルモ本年ハ苦力渡滿期ノ大半ヲ經過セル次第ナレハ現狀ノ儘トシ唯支那側ニ對シテハ領事ニ於テ苦力ヲ無制限ニ入満セシムル事ハ勢ヒ失業者ヲ生セシムル事トナリ治安維持ノ必要上或種ノ制限ヲ加フルハ已ムヲ得サル事ナルヲ以テ苦力ノ大部分ヲ吸收スル前記滿洲土木建築協會トモ密接ナル關係ヲ有スル大東公司ニ於テ入満數ノ調整ヲ爲シ居ル處同公司ニ於テモ右ニ要スル費用ノ

出所無キ爲多少ノ手數料ヲ徵シ居ル次第ナル旨ヲ然ルヘク説明スル等ノ方法ニ依リ支那側ヲ納得セシメラレ度キ希望ヲ有シ居レリ

天津ヨリ北平ヘ轉電アリタシ

青島ヨリ冒頭電報ト共ニ濟南ヘ轉電アリタシ

天津、青島、芝罘ヘ轉電セリ

203 昭和9年5月24日 在濟南西田(畔一)總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

大東公司の活動を黙認するとの韓復渠意向表

明について

濟 南 5月24日後発  
本 省 5月24日後着

本官發芝罘宛電報  
第四號

貴電第六號ニ關シ

二十三日本官韓ニ對シ大臣發青島宛電報第五〇號一ノ趣旨ニ依リ本件ハ滿洲國治安維持其ノ他ノ關係上入満苦力ノ統

204 昭和9年5月26日 在天津栗原總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

天津税関に対し邦人への差別的検査の不当を

北支青年同盟会員抗議について

天津 5月26日後発  
本省 5月26日後着

第一四九號

當地在留民中ニハ當地稅關カ邦人船客ニ對シ特ニ嚴密ナル

検査ヲ行ヒ歐洲人ニ比シ差別的検査ヲ爲スト憤慨スル者ア

リタル處五月廿五日天津丸ヨリ入港ノ際邦人ニ依リ組織サ

レ居ル北支青年同盟會員(當地滿洲國特務機關ノ息ノ掛リ

居ル者)數名同船ニ至リ稅關吏ニ對シ邦人船客携帶品ニ對

スル差別的検査ノ不當ヲ詰リ別ニ暴行ノ程度ニハ至ラサリ

シモ稅關吏ニ脅威ヲ與ヘタル事件アリ右ニ對シテハ稅關長

ヨリ廿四日附ヲ以テ當館ニ對シ向後斯ノ如キ事無キ様取締

アリ度キ旨申出アリタルカ爾來稅關側ニ於テハ邦船入港ノ

際ニハ特ニ物々シキ警戒ノ下ニ検査ヲ行ヒ居リ又當館ニ於

テモ前記同盟會ニ對シ嚴重警告ヲ與フルト共ニ警察官ヲ現

場ニ派遣シ事端ノ發生ヲ防止シツツアリ其ノ結果唯今ノ處

邦人携帶品ニ對スル検査ハ緩和サルルニ至リ此ノ上問題ヲ惹起スル事無カル可シト思考セラルモ種々取沙汰ノ行ハル可キニ付何等御参考迄  
支、滿、北平、南京へ轉電セリ  
支ヨリ上海へ轉報アリ度シ

205 昭和9年6月27日 在上海石射總領事より  
広田外務大臣宛(電報)

滿州と通商するジャンク船に対し外國との通

商規定を適用し再登録を必要とする旨上海税

関告示について

上海 6月27日後発  
本省 6月27日後着

第三五一號

當地海關ハ六月二十六日附ヲ以テ政府ノ命令ニ依リ滿洲ト

通商スル戎克ハ將來中國海關ノ設置ナキ所ニ直接入り又ハ

荷卸シスルコトヲ得ス故ニ滿洲ト通商スル戎克ニ對シテハ

外國ト通商スル戎克ニ關スル規定ヲ暫行的ニ適用スルニ付

此ノ種戎克ハ海上(航)行ノ戎克取締規定ニ依リ相當ノ期間

内ニ再登録スルコトヲ要スル旨告示セリ

支、滿、北平、天津、青島、芝罘、漢口、南京、福州、廈門、廣東、關東廳ニ轉電セリ

北機第二四號

昭和九年六月廿七日

在天津

總領事 栗原 正

在北平

公使館一等書記官 若杉 要殿

停戰協定地區内邦人自動車運輸業に対する中

國側制止要求および我が方回答について

機密第六二三號  
昭和九年六月二十七日  
(7月6日接受)  
在天津

在天津栗原總領事より  
廣田外務大臣宛

停戰協定區域内邦人自動車運輸業に対する中

國側制止要求および我が方回答について

機密第六二三號  
昭和九年六月二十七日  
(7月6日接受)  
在天津

在天津

總領事 栗原 正(印)

外務大臣 廣田 弘毅殿

昭和九年六月廿七日附北平公使館宛北機第二四號往信寫送付

一停戰協定地區内ニ於ケル北支滿蒙聯絡自動車  
運輸部ノ自動車營業ニ關スル件

尙ホ從來停戰協定地區内ニ於ケル邦人關係自動車營業ニ關シ支那側ヨリハ屢次抗議ノ次第アリ貴地古北口間(終點承德)運行ノ坂田組自動車ニ付テハ貴館ヨリ軍需品輸送ノ名目ヲ以テ支那側抗議ヲ拒否シ坂田組ニ於テハ一般客貨ハ北平城外迄テ普通乗用車ニテ輸送シ城外ニ於テ「トラック」ニ移シ古北口ニ向ヒ居ルカ如キ「カモフラージ」ノ下ニ支那側ノ苦情ヲ封シ居ル次第ハ御承知ノ通リニ有之此他北寧

沿線唐山等ヲ起點トシ奥地ヲ往復スル邦人關係自動車營業

ニ關シ當館ニ許可ヲ願出ツル向間々アリ之等ニ對シテハ當

館ニ於テハ右ハ許可スヘキ筋合ニ非ス地方支那官憲ト直接

話合ヒ其諒解ヲ得ヘキモノナリト指示シ又タ已ニ運行ヲ開

始シ居ルモノニ付支那側ヨリ抗議ヲ受ケタル場合ハ當館ニ

於テハ交通極メテ不便ナル停戰協定地區内ニテ本邦人カ此

種營業ヲ開始スル事ハ一般支那人ニ多大ノ便益ヲ與ヘ彼等

ハ之ヲ以テ尠カラス德ト爲シ居ルハ現ニ當館々員ノ奥地旅

行ニ於テ親シク觀取セル事實ニシテ一方營業者ニ於テモ素

ヨリ營利ヲ目的トスルモ其間事業ノ性質及土地柄營業上ノ

危險ヲ負擔セサルヘカラサル謂ハ犠牲的行爲トモ見做サ

ル點ヲモ斟酌シテ之ヲ見ル時ハ所謂特種性ヲ有スル全地

區内ニ於テ單ニ條約乃至諸規則ニノミ拘泥シ之ヲ差止メム

トスルカ如キハ甚々實際ニ即セサルモノト稱スヘク將又北

寧鐵道其他支那側大小ノ機關又ハ支那人個人ノ計劃ノ下ニ

全一營業漸次開始セラルニ至ラハ邦人關係ノ營業ハ或ハ

繼續シ得サルニ至ルヤモ知レス旁々現狀ニ對シ支那側ニ於

テハ餘リ詮議立テセサル事ヲ希望スル次第ナリト應酬シ居

リ近來ニ至リテハ支那側抗議モ單ナル形式的ノモノノ如ク

題ト爲ラサル次第二付右ニ御了知相成リ度此段及回答候

敬具

昭和九年六月二十六日

在天津

日本總領事 栗原 正

櫟榆區

督察專員 陶尚銘殿

207 昭和9年9月10日 在天津田中(莊太郎)總領事代理より

広田外務大臣宛(電報)

停戰協定区域内での日本人および朝鮮人殺傷

事件の多発に対し河北省政府に嚴重保護方申

入れについて

天 津 9月10日後発  
本 省 9月10日後着

第二五二號

往電第二四八號並ニ第二五一號ニ關シ

本官十日于學忠及民政廳長ト共ニ北平ニ出張不在中ニ付省

政府秘書長ニ對シ最近停戰協定地域ニ於テ頻々起ル邦鮮人

見做サルルニ至レルニ付右御參考迄ニ申添ユ  
本信寫送附先 外務大臣 在中公使 在滿大使 南京  
承德

(別紙)

第一三〇號

拜啓陳者遵化、遷安、興隆各縣々長ヨリ北支滿蒙連絡自動車運輸部ハ本年三月以來平泉ヨリ喜峰口、澈河橋ヲ經テ遵化縣ニ至ル間ノ長途客貨自動車營業ヲ開始シ最近更ニ馬蘭峪線ヲ加ヘ各縣々長ノ中止方勸告モ效ナキ旨夫々來電アリタル趣ヲ以テ之カ迅速制止方本月七日附ヲ以テ在北平帝國公使館宛御照會相成リ右ハ全館ヨリノ移牒ニ依リ當方ニ於テモ了承セル次第ナル處從來前記各地ニ於テハ澈河橋及馬蘭峪等ニ駐屯スル關東軍ニ對スル軍需品及糧食物等接濟ノ爲メ間々自動車ヲ運轉セル事實アル事ハ之ヲ承知セルモ北支滿蒙連絡自動車運輸部ノ如キ名稱ヲ以テ長途客貨自動車ノ營業ニ從事シ居ルモノアルヲ聞カヌ前記御來照ニ依リ爲念各方面ニ就キ問合セタルモ之ヲ知ルモノナク且ツ目下降雨ノ季節ニ入り時々ノ降雨ノ爲メ自動車ノ運行ハ事實不可能ノ狀態ナルハ恐ク御承知ノ通リニ有之旁々本件ハ實際問

殺傷事件ニ就テハ夫々別箇ニ交渉スル筈ナルモ唯斯ル傾(向)ヲ以テ推移スルニ於テハ遂ニハ我方ハ自衛ノ途ヲ講スルノ已ム無キニ至ルヘク其ノ結果ハ折角安定ニ向ヒツツアル北支ノ時局ヲ逆轉セシムニ止マラス累ヲ大局ニモ及ホス惧アリ而シテ之カ責任ハ當然支那側ニ於テ負擔スヘキモノナル次第ヲ詳細説示シ此ノ際斯ル事態ニ立至ラサラシムル爲省政府ヨリ當該及各官憲ニ嚴重通令シ邦鮮人ノ保護ヲ徹底セシメラル様取計方ヲ要求スル旨ヲ不取敢申入レタル計フヘキ旨ヲ答ヘタリ御参考迄  
支、北平、南京、滿ヘ轉電セリ

停戰協定区域内における邦人殺傷事件を政治的に利用し河北省政府改組を促進させ黄鄂の

政治的立場強化を図るべき旨意見具申

天 津 9月13日後発  
本 省 9月13日後着

## 第二六〇號(極祕)

最近停戰協定地域内ニ相次イテ發生セル邦鮮人殺害事件ニ  
關シテハ省政府ニ對シ夫々交渉スヘキモ一方之ヲ政治(的)  
ニ見テ別ニ考量スヘキ點アリト認メラル

客年十月以來同地域ニ於テ支那官民ノ爲邦鮮人ノ蒙レル強  
盗又ハ殺傷事件ハ最近ノ分ヲ入レ廿九件、死者十一直接被  
害金額一萬數千元ニ達シタル處右ハ一概ニ排日乃至黨部策  
動ノ結果ト見ルヨリハ(尤モ近來省政府ヨリ同地域各縣ニ  
對シ居住邦鮮人壓迫方通令セリトノ說アリ眞偽ヲ疑ヒ居タ  
ルモ殺害事件頻出ハ或ハ右說ヲ裏書スルヤニモ認メラル)  
同地方カ停戰協定成立以來既ニ一ヶ年以上ヲ經過セルモ全  
ク支那側地方行政不統ニシテ治安維持セラレラル爲ナル  
ハ疑ノ餘地無ク茲ニ至レル禍根トモ稱スヘキハ一言ニシテ  
政務委員會ト省政府トノ確執ニ盡クヘシ現在省政府ノ機構  
ヲ見ルニ民政、財政、實業、建設ノ各廳長ハ全部舊東北系  
ノ遺物ニシテ殘ル教育廳長ハ黨員ナリ  
彼等ハ何レ省政府委員ヲ兼ネ于學忠カ一介ノ武辨ニシテ  
政治的手腕ナキニ乘シ相結束シテ之ヲ掣肘シテ自派勢力維  
持ヲ期シ且ハ日支關係改善ノ任務ヲ有スル政務委員會ノ事  
停戰地域内頻發ノ邦鮮人殺害事件等ヲ政治的ニ利用シ現省  
政府ノ信任ヲ政務委員會其ノ他ニ強調シ一方實際問題ニ付  
テハ出來得ル限り省政府ヲ窮地ニ陥シムル様之努メ以テ右  
政府改造ヲ促進セシメ度ク右ノ如クシテ黃郛政權ヲ支持シ  
速ニ北支ヲ安定セシムルコトハ一方今尙北支獨立等ノ名ノ  
下ニ往々ニシテ兔角陰謀ヲ繞ラサントスル日支ノ分子依然  
存在スルモノト認メラル際是等分子ノ妄動ヲ封鎖スル上  
ヨリ見ルモ得策ト存セラル次第ニ付此ノ點モ御含ノ上我  
方ノ採ラントスル態度ニ付何分ノ貴見御回示相願ヒ度シ  
支、北平、南京、滿洲轉電セリ

業ノ妨害ヲ事トシ居レルハ殆ト周知ノ事實ニシテ彼ノ同委  
員會ノ趣旨ヲ体シ同地域内ノ改善ニ奔走シ居ル兩督察專員

ノ如キ省政府ト各縣トノ中間ニ介在シ事每ニ省政府ノ反對  
ニ遭ヒテ人事ニ財政ニ悉ク行詰リ殆ト爲スナキ實狀ナリ  
(此ノ間ノ事情ハ同地域諸問題討議ノ爲日支關係者ノ懇談  
會ニ關スル報告ニ詳カナリ)將又先般省政府ハ黃郛北上ノ  
時期近シト見ルヤ益世報ノ如キヲ利用シ頻リニ同政權ニケ  
チ附ケタルカ如キ其ノ他兩者ノ間絶エス協調ヲ失シ居ル實  
例鮮カラス一方同政府ハ我方ニ對シ于ノ如キ日常ノ應酬ニ  
ハ之努メ居ルモ一度交渉事務ニ入ランカ毫モ誠意ノ認ムヘ  
キモノナク是等ノ事情ヲ綜合シ此ノ儘推移セハ北支ノ前途  
ヲ見ルニ停戰地區治安問題ニ止マラス進テ黃郛政權ニ  
ハ之努メ居ルモ一度交渉事務ニ入ランカ毫モ誠意ノ認ムヘ  
キモノナク是等ノ事情ヲ綜合シ此ノ儘推移セハ北支ノ前途  
ニ於テハ單ニ停戰地區治安問題ニ止マラス進テ黃郛政權ニ  
依ル日支關係調印ノ如キモ樂觀シ得サルモノアリト存ス  
右ハ獨リ我方ノ觀察タルニ止マラス支那側ニ於テモ既ニ之  
ヲ看取シ現ニ政務委員會側等ニ於テ省政府ヲ保定ニ遷シ天  
津ヲ特別市トシテ張志潭ノ如キ人物ヲ市長トシ一方停戰地  
區ヲ政務委員會ノ直管ニ置クノ案ヲ研究セシコトアル趣ニ  
テ少クトモ同委員會側關係者トシテ省政府改革ヲ痛感セサ  
ルモノ殆ント之無キハ本官等モ常ニ耳ニスル處ニシテ(脫)

209 昭和9年9月20日 在天津田中總領事代理より  
廣田外務大臣宛(電報)

### 玉田近郊における宮越与三郎殺害事件の詳細

について

天津 9月20日後発  
本省 9月20日後着

#### 第二六七號

往電第二五九號ニ關シ

我方調査ノ結果被害者原籍北海道小樽市千歲町(以下不詳)  
現住所馬蘭峪宮腰<sup>(越)</sup>與三郎(二十五才)ハ本月四日馬蘭峪守備  
隊ニ供給スヘキ食糧品ヲ輸送ノ爲唐山ヲ出發シ驛傳的ニ支  
那側ノ保護ヲ受ケツツ馬蘭峪ニ赴ク途中五日玉田遵化兩縣  
境ノ一村落四里牌附近ニ於テ殺害セラレ加害首謀者ハ老君  
屯ヨリ護衛ノ任ニ當レル玉田縣西茫家塢鄉團長吳潤壁ニシ  
テ團員白潤澤及無賴ノ村民二名ニ依リ行ハレシモノナルコ  
ト明瞭トナリ死骸ハ馬蘭峪ヨリ派遣セラレシ調査隊(憲兵)  
ニ於テ之ヲ引取りテ同地ニ送り被害者ノ輸送品ハ全部回復  
セルモ携帶品ハ全ク回復スルニ至ラス

辨事處主任等モ之ヲ本官ニ向ツテ確認シ唯殺害ノ動機ニ至リテハ被害者カ「モヒ」ヲ手持スルモノト信シ同品及拳銃ヲ奪ハシタル如クナルモ犯人ヲ逮捕スルニ非サレハ的確ノ處不明ナリ

尙既電唐山守備隊ヨリノ行軍部隊及前記馬蘭峪ヨリノ憲兵ハ何レモ無事駐在地ニ引揚ケタリ爲念  
支、北平、南京、滿へ轉電セリ

210 昭和9年9月20日 在天津田中總領事代理より  
広田外務大臣宛(電報)

宮越殺害事件の交渉担当および中國側への要求  
条件をめぐり柴山武官補佐官らと協議について

天津 9月20日後発  
本省 9月20日後着

第二六八號

往電二六七號ニ關シ

十九日本官ハ當地軍代表及柴山中佐ト本件交渉ニ關シ下打合ノ際先決問題トシテ被害者ノ身分及旅行ノ目的ニ鑑ミ解決條件ニハ關東軍側ノ希望ハ之ヲ考量ニ加フヘキモ元來停

戰協定ヨリ發スル諸問題ト全然趣ヲ異ニスル本件ノ交渉ニハ當館之ニ當ルヘキモノナルヲ主張シ兩者ハ直ニ同意セルモ一方關東軍ハ其ノ柴山宛ノ電報ニ依ルモ同軍ヲ代表スル柴山ヲシテ直接省政府ニ交渉セシムル意圖ノ如ク解セラルニ付此ノ際至急本省ヨリモ中央軍部ヲ通シ關東軍ニ對シ當館交渉ノ任ニ當ルヘキモノナル點御申入レ方御取計有之度(當地軍代表及柴山トモ打合セ濟)

同時ニ交渉當事者ノ點ハ何レニスルモ解決條件トシテハ既ニ關東軍ヨリ柴山宛電報ニ現ハレシ希望ヲ參酌シ左記ノ通り申合ヲ了シタルニ付何分ノ御異見アラハ御回示アリタシ一、于學忠ハ支那駐屯軍司令官ニ對シ謝罪スルコト(主トシテ關東軍側ノ希望)

二、犯人ノ逮捕及嚴罰  
但シ處罰前一應日本官憲ニ引渡シ其ノ調査ニ便セシムルコト

三、直接保護ノ責任者タル順化及玉田縣長ノ罷免  
四、將來ノ保障  
本件ノ具体的手段トシテ直接監督官憲タル民政廳職員及戰區内ニ於ケル不良縣長等ノ肅正淘汰ヲ要望ス

五、賠償金一万元

冒頭往電ノ通り轉電セリ

編注 同二十二日發訂正電報により「兩者ハ直ニ同意セルモ」を削除して「置キタル處」が加えられ、また「(當地軍代表及柴山トモ打合濟)」が削除された。

211 昭和9年9月20日 在中國有吉公使より  
広田外務大臣宛(電報)  
華北における國民黨部の活動停止および于學忠軍移駐を黃郛より蔣介石に要望との情報について  
上 海 9月20日後発  
本省 9月20日後着

第七六七號

南京發閣下宛電報第九四四號ニ關シ

二十日山本榮治ノ館員ヘノ内話左ノ通

近々渡日ノ豫定ナル危道豐ヨリノ聞込ニ依レハ危ハ曩ニ黃郛南下ノ際許修直、唐某等ト共ニ黃ニ對シ華北ニ於ケル日支關係安定ノ爲ニハ黨部ノ活動停止ト共ニ于學忠軍ノ移動

絕對必要ナルニ付蔣介石ニ對シ此ノ點ヲ強ク要求實現ヲ祈ル要アル旨懇懃シ置キタルカ今度南京ニテ黃ニ落合ヒタル際其ノ結果ヲ尋不タルニ黃ハ蔣モ右ニ同意ニテ于軍ノ移動方ニ付學良ト協議シタル由ノ處學良ニ於テモ異存ナカリシ模様ナルモ部下蔣領<sup>(蒋)</sup>ノ多クカ現ニ河北ニ家屋財產ヲ所有シ居ル關係上于軍ニシテ他ニ移動センカ彼等ノ地盤ハ完全ニ失ハレ河北歸還ノ望ナキニ至ルヲ以テ自暴自棄ニ陥リ如何ナル事件ヲ惹起スヤモ知レストノ理由ニテ急速實行ヲ困難トシ躊躇シ居リ蔣トシテモ何成瀬ノ關係モアリ夫以上無理押出來サル實情ニアリ何レ時機ヲ待テ黃ノ希望ニ副フ積リナレハ一先ツ歸任セラレタシト強テノ話ナリシ旨語リタルヲ以テ危ハ重ネテ斯ル手溫キコトニテハ華北ノ收拾覺束ナケレハ歸任ノ上ハ更ニ辭職ヲ賭シテモ右要求貫徹方蔣ニ強要ノ要アル旨激勵シ置タル趣ナリ

北平、南京へ轉電セリ

212 昭和9年9月22日 在天津田中總領事代理宛(電報)  
宮越殺害事件の交渉担当を天津總領事とする

「ことに陸軍側同意の旨通報ならびに要求条件

中の謝罪対象に総領事を追加の旨訓令

別電 九月二十二日発広田外務大臣より在天津田中  
総領事代理宛第一一二号

右同意の旨を関東軍に訓令した陸軍側電報文  
面

本省 9月22日後4時0分発

第一一二號

貴電第二六八號ニ關シ

交渉當事者ニ關スル御申越ノ點ハ軍中央部ニテモ諒解シ別  
電第一一二號ノ通り關東軍へ電報スルコト、ナレルニ付責  
官モ軍ト協力ノ上交渉ニ當ラレ度シ  
尙解決條件(一)ノ謝罪ハ居留民ノ被害事件ナル點ヲ考慮シ支  
那駐屯軍司令官並ニ總領事ニ對シナサシムルコト、致度ク  
右ハ軍部ト協議濟ミ

支、北平、南京、滿へ轉電セリ

(別電)

本省 9月22日後4時0分発

第一一二九號

本官發天津宛電報

席の同省追出しなどを関東軍要望について

新 京 9月23日前発

本省 9月23日後着

213 昭和9年9月23日 在満州国菱刈大使より  
宮越殺害事件(在支) 广田外務大臣宛(電報)

宮越殺害事件に関し交渉への柴山武官補佐官

帶同および本件を利用しての干渉忠河北省主

席の同省追出しなどを関東軍要望について

新 京 9月23日前発

本省 9月23日後着

第一一二二號

宮腰事件ニ關スル支那側トノ交渉ハ關東軍天津軍及天津總

領事館カ一致ノ歩調ヲ採ルコト最モ效果的ナリト思考セラ  
ル、ニ付相互協力ノ上交渉ニ當ルコト、致シ度シ

尤モ當方トシテハ邦人保護ノ見地ヨリ外務官憲カ交渉ノ當  
事者タルコト適當ナルヤニ存セラル

支、北平、南京、滿へ轉電セリ

貴官發天津宛電報第二六八號ニ關シ(御用商人官腰殺事件)  
第一〇號

本官發天津宛電報

北平 9月26日後発  
本省 9月26日後着

第三六二號

一、貴電ノ次第關東軍司令官ニ申入レタル處同司令官ニ於テ  
モ素ヨリ主トシテ貴官ニ於テ本件交渉ノ任ニ當ルコトニ  
異存ナキモ本來本件ハ停戰區域内ニ於テ軍需品輸送ノ際  
發生シタル事件ナルニモ鑑ミ軍トシテモ多大ノ關心ヲ有  
スル次第ニ付貴官交渉ニ當リテハ充分軍側ト連繫ヲ保ツ  
ハ勿論更ニ柴山武官同道ニテ先方ト折衝セラレタキ希望  
ヲ有シ居リ右ノ次第軍ヨリ柴山武官ニ電報スル趣ナリ  
二、尙條件ニ付テハ關東軍ハ貴電「ヲ重視シ本件ヲ利用シテ  
于學忠ヲ河北省主席ヨリ追出スコトヲ目標トシ從テ貴電  
三、及四ノ責任縣長寵免及不良縣長ノ淘汰ハ相當廣範圍ニ  
行ヒ支那側ニ相當「シヨツク」ヲ與フルカ如キ效果ヲ收  
メ度キ希望ヲ有シ居レリ

大臣、支、北平、南京へ轉電セリ

~~~~~

214 昭和9年9月26日 在中國若杉公使館等書記官より
広田外務大臣宛(電報)

戦区清理委員会の組織ならびに停戰協定区域
内の治安状況に関する陶尚銘灤榆区行政督察
專員の内話について

聯累者ヲ加フルトキハ約五千名ニ上リ玉田駐屯ノ石友三舊部一千二百名ハ其ノ實約二千ニモ達シ合計七千名孰レモ舊馬賊隊ニシテ之ヲ改編セル所謂保安隊ノ存在ニ對シ支那側ニ認メラレタル六千名ノ河北省保安隊ニテハ其ノ所持武器等ノ關係上之力監視タケニサヘ不足ヲ感スル位ニテ其ノ他ノ地方治安上ノ警備等ニ至リテハ到底満足ニ行ヒ難ク殊ニ戰區内ノ賭博場ノ警衛、阿片「モルヒネ」「コカイン」等ノ藥物販賣等モ直接間接ニ之等馬賊上リノ連中ト聯絡アル日支人及朝鮮人等ニ依リ行ハレ居ル實狀ナルヲ以テ之力取締殆ト不可能ニシテ遷安縣事件及玉田事件等モ結局之等行政組織ノ缺陷ニ起因スルノミナラス日本軍憲ノ威光ヲ笠ニ着テ横暴ヲ極ムル日鮮人ノ行動言語同斷ナリトテ我軍側ノ强硬ナル主張及我方ノ戰區ニ對スル真意ヲ疑フカ如キ口吻ヲ漏シ愚痴ヲ列ヘ居タルカ右ハ何處迄眞相ナルヤ疑ハシキモ戰區内實狀ノ一端ヲ窺フヘキモノアルヲ以テ何等御参考迄支、南京、天津、滿洲轉電セリ

支那問題上ノ關係上之力監視タケニサヘ不足ヲ感スル位ニテ其ノ他ノ地方治安上ノ警備等ニ至リテハ到底満足ニ行ヒ難ク殊ニ戰區内ノ賭博場ノ警衛、阿片「モルヒネ」「コカイン」等ノ藥物販賣等モ直接間接ニ之等馬賊上リノ連中ト聯絡アル日支人及朝鮮人等ニ依リ行ハレ居ル實狀ナルヲ以テ之力取締殆ト不可能ニシテ遷安縣事件及玉田事件等モ結局之等行政組織ノ缺陷ニ起因スルノミナラス日本軍憲ノ威光ヲ笠ニ着テ横暴ヲ極ムル日鮮人ノ行動言語同斷ナリトテ我軍側ノ强硬ナル主張及我方ノ戰區ニ對スル真意ヲ疑フカ如キ口吻ヲ漏シ愚痴ヲ列ヘ居タルカ右ハ何處迄眞相ナルヤ疑ハシキモ戰區内實狀ノ一端ヲ窺フヘキモノアルヲ以テ何等御参考迄支、南京、天津、滿洲轉電セリ

215 昭和9年9月27日 在天津田中總領事代理より
宮越殺害事件解決のための我が方要求条件を
于学忠に提示について

天津 9月27日後発
本省 9月27日後着

第二七四號

⁽¹⁾ 宮腰事件ニ關シテハ御訓令ノ趣旨ヲ体シ二十六日本官于學忠ニ會見シ（柴山中佐同伴）本件ハ（一）被害者カ關東軍關係者ニシテ同軍ニ供給スル飲食糧品輸送ノ途中ニ在ルヲ加害者ハ知リツツ尙之ヲ慘殺セル點ニ於テ事件ハ皇軍ニ對スル侮辱ト認ム（二）停戰協定地域内ニ於テ從來邦人ノ支那官民ヨリ受ケタル慘虐事件多々アリテ支那側ハ屢次之カ保護ヲ聲明シ居ルニ拘ラス毫モ改善セサルノミナラス遂ニ今回被害者ノ如キ身分要務ノ者親シク護衛ノ任ヲ負ヘル者ノ爲ニ殺害セラルルニ至ル之ニ二地方行政ノ不統一治安維持ノ缺陷ニ基クモノニシテ外國人ノ生命財產保護ノ責アル大小地方官憲ノ責任殊ニ重大ナリ（三）本件ハ從來頻出セル同種不祥事件ト併セテ之ヲ見ルトキハ戰區内ニ於ケル排日風潮尙熾烈ナ

ル結果ト言フヘク若シ支那側屢次聲明ノ通り同地方官民ヲ良ク指導シ排日取締ヲ徹底セシムルニ於テハ今回ノ如キ重大事件ヲ惹起スルコト無カルヘク是等ノ諸點ヲ綜合シ本件ハ兩國間ノ一大不祥事ナルヲ強調シ當方ハ慎重ニ考慮ノ上左記解決條件ヲ提出スルヲ以テ速ニ之ヲ容諾アリ度キ旨並ニ右條件ノ實行ハ今後ニ係ルモノ多タアリ
從テ之カ支那側ノ措置如何ニ依リテハ事件ヲ益々紛糾セシムルヲ以テ迅速且有效的ニ實行方ヲ要求スル旨ヲ記載セル本官ノ名ニ於ケル公文（寫シ郵報ノ筈）ヲ突キツケ本官及柴山ヨリ口頭ヲ以テ詳細説明ヲ加ヘ特ニ我方ニ於テハ今後ノ保障ニ最モ重點ヲ置ク旨ヲ警告セル處于學忠モ大体之ヲ諒得セシカ右條件ハ如何ニモ重大ニシテ一存シ兼ヌルニ付至急黃郛ニ協議ノ上重ネテ交渉スルコト致度キ旨ヲ答ヘタリ

解決條件（當地軍及關東軍代表ト協議ノ上決定セルモノ）

一、省主席ハ關東軍司令官代理タル支那駐屯軍司令官並ニ在天津日本總領事ヲ訪問シ謝罪スルコト

二、犯人ノ逮捕及之カ處罰

但シ處罰前一應日本官憲ニ引渡シ其ノ調查ニ便セシムル

216

昭和9年10月2日 在天津田中總領事代理より

広田外務大臣宛（電報）

宮越殺害事件發生を于学忠陳謝の上我が方要求条件を全面容諾の旨回答について

天津 10月2日後発
本省 10月3日前着

第二八一號

往電第二七四號ニ關シ(宮腰被殺事件交渉經過)
^(越カ)

爾來支那側ハ當館及軍方面等ニ付頻ニ我方眞意ヲ探リ居タル如クナル處本二日于學忠ハ梅津司令官及本官ヲ(同席)訪問シ本件發生ニ對シ遺憾ノ意ヲ表シ尙我方提出ノ解決條件ハ全部之ヲ容諾シ誠意ヲ以テ實行スヘキ旨ヲ述ヘタリ右ハ折返シ公文ヲ以テ申越ス答ナルモ右不取敢

尙于學忠ノ立場ヲ餘リニ苦シムルコトハ今後同人ノ解決條件實行ヲ徒ニ困難ナラシムル次第ナルニ付之ヲ避クル爲本件解決ノ内容ハ公表セサルコトニ軍側ト打合セ濟ナルニ付御含置アリ度シ

冒頭往電ノ通轉電セリ
尚于學忠ノ立場ヲ餘リニ苦シムルコトハ今後同人ノ解決條件實行ヲ徒ニ困難ナラシムル次第ナルニ付之ヲ避クル爲本件解決ノ内容ハ公表セサルコトニ軍側ト打合セ濟ナルニ付御含置アリ度シ

冒頭往電ノ通轉電セリ

217 昭和9年10月30日 在中國若杉公使館一等書記官より
広田外務大臣宛(電報)

張北において中國兵による池田書記生歿打事

件発生について

北平 10月30日前發
本省 10月30日前着

218 昭和9年10月30日 在中國若杉公使館一等書記官より
広田外務大臣宛(電報)

張北事件への柴山武官補佐官抗議に対し宋哲

元察哈爾省主席遺憾表明について

北平 10月30日後發
本省 10月30日後着

第三九六號(大至急)

本官發張家口宛電報

第四四號

多倫特務機關發電報ニ依レハ天津軍參謀松井、川口兩中佐等ノ一行廿六日貴地ヨリ多倫ニ向フ途中張北南門ニ於テ第百三十二師ノ衛兵及保安隊員ニ依リ武器ヲ擬シテ前進ヲ阻止セラレ結局通過ヲ許サレタルモ同行ノ池田書記生ハ衛兵

司令ノ爲殴打セラレタル事件アリタル趣ニテ柴山武官ヨリ當館宛宋哲元(目下病氣療養ノ爲來平中)ニ對シ嚴重交渉方依頼ノ次第アリタル處右ニ關スル眞相折返シ至急報ヲ以テ回電アリ度シ

大臣、支、南京、天津へ轉電セリ

219 昭和9年11月2日 在中國若杉公使館一等書記官より
広田外務大臣宛(電報)

張北事件への柴山武官補佐官抗議に対し宋哲

戰区清理委員會の組織大綱公布について

北平 11月2日後發
本省 11月2日後着

219 昭和9年11月2日 在中國若杉公使館一等書記官より
広田外務大臣宛(電報)

戰区清理委員會の組織大綱公布について

北平 11月2日後發
本省 11月2日後着

第四〇一號

本件ハ成ルヘク之ヲ地方的解決ニ止メ擴大セサルコトニ本官トモ打合セタル上本三十日柴山武官宋哲元ヲ訪問シ川口參謀來電ノ事實ヲ詳細説明ノ上我方ニ於テハ本件ヲ頗ル重視シ居ルヲ以テ追テ外務官憲ヨリ申入レアルコトト信スルモ不取敢本件ニ對スル宋ノ謝罪下手人ノ處罰及責任者罷免ヲ爲スニ非サレハ事件ノ重大化ヲ恐ルル次第ヲ强硬申入レタル處宋ハ本件ハ何等カノ行違ニ基クモノト思考スルヲ以テ何レ其ノ眞相ヲ調査スル筈ナルモ事件發生ノ事實ヲ認メ其ノ不都合ニ對シ遺憾ノ意ヲ表スルト共ニ調査ニ依リ事件ノ眞相判明ヲ俟テ責任者及加害者ノ處分ヲ行フヘク將來ニ付テハ嚴重ニ之ヲ取締ルヘシト言明シタル趣ナリ不取敢御参考迄

大臣、支、南京、天津へ轉電セリ

220 昭和9年11月7日 在天津川越(茂)総領事より
広田外務大臣宛(電報)

河北省政府の保定移転および同省政府改組について

天津 11月7日前發
本省 11月7日後着

(¹第三〇五號(極祕)
往電第二六〇號ニ關シ(黃鄂政權援助、打倒于學忠ノ件)

玉田事件解決條件中將來ノ保障ノ點ニ付支那側ニ於テハ對日關係上省政府ノ現狀ニ付或程度ノ考慮ヲ加ヘサルヲ得サルヲ覺悟スルニ至リタルカ如ク之カ爲省政府ヲ中心トシ一事異動ニ關シ逸早ク種々ノ風説傳ヘラレ殊ニ于學忠ノ内密漢口行及蔣介石北上等相前後セル事實ハ端ナクモ于學忠轉任ノ噂ヲ生シ之カ一理由トナリ當地金融界ニモ既電ノ如キ波紋ヲ惹起セルコトアル處玉田事件解決ヲ斡旋セル陳覺生ハ數日前田中ニ對シ省政府ハ愈保定ニ移サレ于主席ハ其ノ儘トシ民政教育兩廳長ヲ更迭シ天津ヲ特別市トシ張廷鍔。(舊東北系ニ屬スルモ黃鄂國務總理時代ノ秘書長ニシテ現在モ秘書タル關係アリ)ヲ市長トスルコトニ蔣介石汪精衛

張學良及黃鄂トノ間ニ內定セル旨内報シ來リタルカ更ニ本六日孫潤宇ノ田中ニ内話スル處ニ依レハ黃鄂ハ五日電報ヲ以テ中央ニ對シ省政府ヲ保定ニ移シ
(²于學忠ヲ其ノ儘主席トシ秘書長ニ魏鑑ヲ民政廳長後任ニ鄭道儒(舊東北系)ヲ建設實業兩廳ヲ合併シ其ノ廳長ニ張厚琬(張燕鄉ノ甥)ヲ教育廳長ニ張厲生(黨員ニシテ藍衣社關係者)ヲ又天津特別市長ニ張廷鍔ヲ夫々任命スル様具申セル趣ニテ右ハ前記陳覺生ノ内報トモ綜合シ恐ラク事實ナルヘク遠カラス之力發表ヲ見ルニ至ルヘシト思料セラル處右實現ノ場合ハ省政府自體ハ保定ニ去リ而モ其ノ組成ニ於テ舊東北系乃至黨部ノ色彩一層濃厚トナリ甚タシク我方期待ヲ裏切ル次第ナルモ停戰協定地域ハ豫テヨリ傳エラルルカ如ク最近北平ニ於テ成立セル戰區清理委員會ヲ通シテ北平政務整理委員會之ヲ直轄スルコトナルヘキヲ以テ同地域及平津兩地ノ對日關係ハ相當改善セラルヘキヤニ思料セラル

本件ハ發表前ニ洩ルルニ於テハ意外ノ紛糾ヲ惹起スル惧アルヲ以テ特ニ極秘ニセラレ度趣内報者ヨリノ希望アルニ付此ノ點御含ミ置キアリ度シ

支、北平、南京、滿へ轉電セリ

221 昭和9年11月10日

在中國有吉公使より
廣田外務大臣宛(電報)

張北事件に關し察哈爾省政府正式陳謝について

付記

十一月十一日発酒井(隆)支那駐屯軍參謀長よ

(付記)

天津

11月11日後9時0分發

參謀本部

11月12日前2時30分着

天第八七號

蒙古旅行ヨリ歸來セル川口參謀ノ報告要旨左記ノ如シ

一、張北ニ於ケル事件ハ天電第四八號ノ如ク當方ニ何等ノ手落ナク全ク支那兵ノ暴舉ナルコト明瞭ナリ

二、綏遠ニ於テハ十數名ノ便衣ヲ着セル保安隊員カ宿舎及出先ニ附纏ヒテ監視ラ嚴重ニシ停車場出發ニ際シテハ制服ノ保安隊員約二十名着剣シテ一行ヲ包圍スルカ如キ態度ヲ示セリ

貴電第四六號ニ關シ

御指示ニ從ヒ先ニ要求シタル解決條件ノ上ニ更ニ宋哲元ノ柴山武官ニ對スル言明事項ヲ加ヘ直ニ先方ノ承認ヲ取付ケ置キタル處七日一行歸來シタルヲ以テ翌八日夜半早速解決

條件第一項ニヨル正式陳謝トシテ省政府代表張參謀長ハ岳

三、綏遠、張家口間列車中ニテハ綏遠、山西省ノ憲兵各驛ニ於テ頗ル執拗ニ訊問セリ

四、川口參謀ハ八日張家口ニ帰還スルヤ直ニ察哈爾省政府ニ參謀長張維藩ヲ訪問シ(宋哲元ハ當時蔣介石ニ隨行シ秦德純ハ南京ニ出張シ共ニ不在)張北事件ヲ認メシメ且察哈爾省内ニ於ケル排日行動張家口ニ於ケル日本人ノ居住妨害ノ件ニ対シ多倫張家口間ニ日本人及物資ノ流動ヲ要求シタルニ之ヲ承認シ且只管感謝^(感か)セリ依テ同日余ハ日本領事館ニ張參謀長岳開先、張楚德(省政府第三課長ニシテ日本ノ法學士)ヲ招致シ松井、川口中佐、植山少佐立會ノ上橋本領事ニ対シ正式ニ謝罪セシメタリ尙橋本領事ハ公文ヲ以テ抗議シ之カ回答ヲ要求シアリ

五、川口參謀ハ九日黃鄂ヲ外交大樓ニ訪ネ張北事件及緩遠、察哈爾ニ於ケル支那側ノ対日態度ヲ説キ且貴下ノ平常主張セラレアル日支親善ニ関スル意見ハ北平以西ノ地区ニ於テハ全ク事實相反シアリ大ニ取締ヲ嚴ニセラレ度ト述ヘタルニ対シ黃鄂ハ之ヲ陳謝シタル上使者ヲ平綏沿線ニ派遣シ我意圖ノ傳達ヲ爲スヘシト約セリ之ヲ要スルニ今回ノ事件ハ宋哲元以下察哈爾省政府ノ者等ニ対シ相當大ナル刺戟^(刺突)ヲ與ヘ多少ナリトモ対日態度ヲ改メシメ且多倫、張家口間交通ヲ確保セシメタルニ付公文ヲ受領セハ

來自分(黃)ハ既ニ總理及外交交通教育等ノ諸部長ヲ數回經歷セルコトモアリ今更官職ニ對スル野心モ執着モ無ク自分ノ去就ハ一二其ノ當ルヘキ職務ノ必要性ト環境ノ事情カ其ノ職務遂行ニ可能ナリヤ否ヤニ依リ決スル次第ナルカ華北政務整理委員會ハ實ハ自分ノ出馬ニ依リ組織セラレタルカ如キモノニシテ其ノ存在ノ必要ハ依然トシテ變ル所無キモ自分ノ目的トスル華北ニ於ケル日支關係ノ調節カ所期ノ如ク達成スルコト可能ナリヤ否ヤニ付テハ目下ノ環境ヨリ推シテ鮮カラサル疑惑ヲ生スルニ至レリ

例ヘハ戰區内玉田ニ於ケル右友三部下一千餘名ノ保安隊^(石井)元馬賊ノ始末サヘモ關東軍ニ依リ許サレス玉田ハ殆ト死ノ町ト化セルコトハ先般日本側視察者ノ親シク目擊シタル通リニシテ同縣民ノ悲慘ナル狀態ハ南京及自分ニ對シ毎日ノ如ク報告セラレ自分等モ血淚ヲ呑ムノ思ヲナシ居ル次第ニシテ之ハ其ノ一例ニ過キサルカ支那側ニ於テハ相當ノ犠牲ヲ忍ヒテ曩ニハ通車ヲ斷行シ今又通車問題ヲ解決セントシテ努力中ナルニ拘ラス日本側ニ於テハ今尙自分等ニ何等懸案解決ノ誠意ナキモノノ如ク喧傳シ殊ニ最近上海ニ於ケル武官會議其ノ他某々武官及參謀長等ノ聲明ハ依然トシテ

今回ハ此程度ニ於テ追窮スルヲ止メ更ニ監視ヲ嚴ニセントス

閔、北、上、濟、漢、七師スミ

222 昭和9年12月8日 在中国若杉公使館(等書記官より)

廣田外務大臣宛(電報)

玉田の治安狀況や上海武官会合の討議内容などに於する日本側への強い不満に鑑み黃鄂は近く辭職する可能性ありとの観測について

北平 12月8日後発 本省 12月8日後発

第四二九號(極秘)
往電第四二八號ニ關シ

七日本官黃鄂ト會見ノ際黃ノ口吻ニ依レハ其ノ去就ニ關シ蔣介石ト打合中ナル模様ナリシニ付本官ヨリ黃ノ内政部長兼任ニ依リ黃カ當地ヲ去ルカ又ハ將來當地政務整理委員會廢止トモナルニ於テハ我方トシテモ關係鮮カラサル旨ヲ述ヘ右ニ關スル黃ノ眞意ヲ確カメタル處黃ハ自分ノ去就ニ關シ採ルヘキ根本的態度ニ付腹藏無ク申述ヘタシト前提シ原

南京政府打倒及自分等ニ對スル不信ノ意嚮ヲ表明シ居リ斯テハ自分等カ如何ニ努力スルモ日支關係ノ改善ヲ計ルコト容易ナラス從テ支那國民ヨリ見レハ自分ノ當地ニ於ケル努力ハ凡テ日本側ノ便利ヲ計ルノミニシテ何等支那ニ貢獻スル所ナキモノノ如ク取ラレ其ノ立場頗ル困難ニテ斯ノ如キ環境ノ下ニ於テ自分カ日支關係ニ對シ如何程ノ貢獻ヲナシ得ルヤ見込乏シキ次第ナルモ自分ハ依然トシテ政務整理委員會存在ノ必要ヲ感スルヲ以テ此ノ際其ノ職ヲ抛ツカ如キ意嚮ヲ有セサルニ付假令内政部長ノ兼任ヲ引受クルモ現委員長トシテ留任スヘク從テ政務整理委員會存廢ノ問題ハ未タ考慮シ居ラスト答ヘタルニ付本官ヨリ貴下ノ立場ハ我國ニ於テモ充分了解セラレ居ルヲ以テ大局上ヨリ達觀シテ少シク勇氣ト忍耐トヲ以テ局面打開ニ當ラレ度ク然ラサレハ貴下折角ノ出馬モ無意味ニ終ルヘシト勸告シ更ニ本官ヨリ内政部長兼任ハ政府部内ニ一層ノ發言權ヲ有スルコトナリ却テ貴下ノ對日方針ヲ遂行スル上ニ便利ナラスヤト質シタル處黃ハ同部長兼任ハ一利一害ニシテ之ヲ兼任スル場合ニハ先般官腰^(腰)事件解決ノ爲自分ヨリ國民政府ニ對シ河北省民政及教育廳長等ノ更迭ヲ進言セル際中政會議ニ於テ相當

反對アリシニ拘ラス丁度南下中ノ何應欽列席シ居リ同氏ヨリ華北ノ對日關係及新舊廳長ノ華北ニ於ケル關係等ヲ説明ニ努メタル爲遂ニ自分ノ進言通り通過セル如キ有利ナル場合アルモ一方當方面ノ環境カ自分ノ目的遂行不可能ナリト見込ツキタル場合ニ自分ノ現地位ヲ棄ツル爲ニハ内政部長

ノ如キ重任ヲ兼ネ居リテハ却テ不便ヲ感スヘシト語レリ右黃ノ口吻ヨリ察スレハ黃ハ當地出馬以來ノ態度ニ鑑ミ相當嫌氣ヲ生シ居リ今後ノ情勢如何ニ依リテハ近キ將來ニ於テ手際良ク引退セシトスル積リニ非スヤトモ察セラル節アルモ結局蔣介石ノ勸告ニ依リ當分現職ニ留マルモノト存セラル

本電ハ絶對ニ外部ニ漏レサル様御含ミ請フ
支へ轉電セリ

223 昭和9年12月11日 在滿州國菱刈大使より
広田外務大臣宛(電報)
河北省および天津市兩黨部が滿州國要人の財產沒収を決議したとの情報について

大連新聞奉天特電トシテ傳ヘラルル處ニ依レハ今回貴地黨部ノ決議ニ依リ貴地ニ在ル滿洲國要人ノ財產ヲ沒收スルコトトナリタル趣ナル處右ニシテ事實トセハ平地ニ波瀾ヲ起シ日滿兩國ノ對民國關係ヲ惡化スル虞アリ就テハ右眞偽御取調ノ上右ニ類スル事實アリトセハ貴地駐屯軍側ト御聯絡ノ上民國側當局ニ對シ然ルヘク御警告方相煩度シ
大臣、北平、支、南京へ轉電セリ

224 昭和9年12月27日 在天津川越總領事より
広田外務大臣宛(電報)
河北省における滿州國要人の財產沒収は實施を見合わせるよう于学忠らに嚴重申入れについて
天津 12月27日後発
本省 12月27日後着

第三三一號
本官發滿宛電報

第一五三號
貴電第一三號ニ關シ

當方調査ニ依レハ本年八月頃河北省及天津市兩黨部ハ滿洲國要人ノ北支ニ於ケル財產ニ關シ中央黨部ニ經伺ノ上北支各地方機關配屬ノ東北出身者及東北同鄉會等ト共同之力調查ニ着手セシカ中央ハ北支事態ヲ考慮シ一時之ヲ中止セシメタルコトアリ次テ十一月ニ至リ天津市黨部ハ所謂逆產ノ調査及沒收ヲ目的トスル天津市逆產調查委員會ナルモノヲ設ケタリトノコトナルカ未タ沒收ヲ實行シタル模様無キカ如シ依テ廿七日田中ラシテ于學忠並ニ新天津市長張廷鍔ヲ各訪問セシメ右當方入手ノ情報ヲ示シ本件ハ在滿關東軍ニ於テモ同様ノコトヲ聞込ミ頗ル之ヲ重大視シ居ル旨ヲ告ケ若シ支那側カ果シテ右ノ如キ處置ニ出ツルニ於テハ之徒ニ平地ニ波瀾ヲ起スモノニシテ日本側トシテハ特ニ北支治安維持ノ見地ヨリ支那側ノ深甚ナル注意ヲ喚起セサルヲ得サ

大臣、北平、支、南京へ轉電セリ

ル旨嚴重申入レタル處
兩人トモ之ヲ諒トシ于主席ハ滿洲國ノ北支ニ於ケル財產ハ甚夕多岐ニ亘リ之カ關係スル所ハ單ニ滿洲側要人ノミナラス支那人側ニモ及ヒ沒收ノ如キ輕々シク實行スルヲ得ス且之カ爲ニハ自然地方官ノ援助ヲ要スル次第ナルカ自分(于)トシテハ右ニ關シ何レヨリモ何等ノ指示ヲ受ケ居ラス實ハ全ク初耳ナルニ付慎重取調ノ上黨部側ニ果シテ斯ル計畫アルニ於テハ斷然之ヲ中止セシムル様處置スヘシト答ヘ市長モ斯ル事實ヲ聞知セストテ直ニ調査ノ上必要ニ依リテハ黃郛ニ報告シ黃ヨリ中央政府ニ對シ之カ停止方ヲ申請セシムル様取計フヘシト答ヘタル趣ナリ
尙本件ニ關シ當方參考迄ニ承知致度ニ付北支ニ於ケル滿洲國要人財產ノ種目所在地權利關係等詳細取調ノ上御回報相煩度

新京 12月11日後発
本省 12月11日後着
第一三八〇號
本使發天津宛電報
第一三號